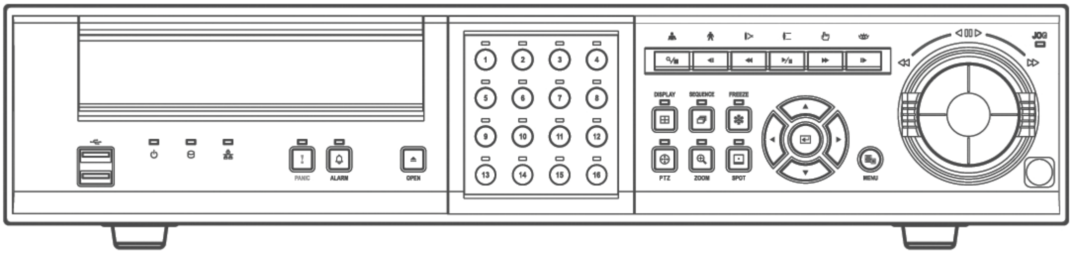
監視映像システム & センサー
SELCO

取扱説明書
デジタルレコーダー
SDRX-1611



このたびは、デジタルレコーダーをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管してください。
保証書には必ず必要事項を記入してください。

免責について

- 本製品は、映像監視を目的とするものであり、発生した事故・損害等を補償するものではありません。
- 弊社はいかなる場合にも以下に関して一切の責任を負わないものとします。
  - お客様による商品の分解、修理または改造を行われた場合、その原因如何に関わらず発生した一切の故障、事故、不具合。
  - お客様ならびに施工業者様の誤使用や不注意により生じた故障、事故、不具合。
  - 第三者が製造した機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便、損害、被害。
  - 本製品の故障、不具合を含む何らかの理由により映像表示、記録ができないこと、および記録情報が消滅したことによる不便、損害、被害。
  - ハードディスク交換を含むメンテナンスなどにより、映像データ、設定データが消滅したことによる不便、損害、被害。
  - お客様により監視、記録された映像が何らかの理由により公とされたり、監視目的以外に使用されたことによるプライバシー侵害を理由とする賠償請求やクレーム等。

個人情報の保護について

- 本製品にて撮影された個人を判別できる映像情報は、「個人情報の保護に関する法律」で定められた「個人情報」に該当します。
  済産業省の「個人情報の保護に関する法律についての経済産業分野を対象とするガイドライン」における【個人情報に該当する事例】を参照してください。
- 映像情報については、適正にお取扱いください。

安全上のご注意

ご使用の前にこの欄を必ずお読みになり、正しくお使いください。
この欄の注意事項は、ご使用になる人や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りください。

警告	この表示の注意事項を守らないと、火災、感電などにより、死亡または重傷などを負う危険性が想定される内容です。
注意	誤った取り扱いをすると、人が損害を追う可能性が想定される内容および、物的損害の発生が予想される内容を示しています。

■絵表示の例

分解禁止　接触禁止　水ぬれ禁止　禁止	してはいけない「禁止」内容です。
強制　電源プラグを抜け	必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

異常があるときは、すぐに使用をやめる

煙が出ている、変なにおいがする、落としたりケースを破損した、接続ケーブルが傷んだ、画面が映らないなどの場合は、すぐに使用をやめ、販売店にご連絡ください。

電源プラグを抜け

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災、感電、故障の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り販売店にご相談ください。

禁止

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。

内部の点検は、販売店にご依頼ください。

分解禁止

雷がなりだしたら本体、ケーブル、電源プラグなどには触れない。

感電の原因となります。

接触禁止

工事は販売店に依頼する

工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物破損の原因となります。

必ず販売店に依頼してください。

強制

電源ケーブルは傷つけない

ケーブルが痛んだまま使用すると、感電、ショート、火災の原因となります。

ケーブルやプラグの修理は、販売店に依頼してください。

禁止

水の入った容器や、小さな金属物を上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

正しい電源電圧（交流100V）で使用する、また配線器具の定格電流を超えない

交流100V以外の電圧で使用したり、配線器具の定格電流を超えたり、たこ足配線などにより、発熱や火災や感電の原因となります。

強制

電源プラグのほこりなどは定期的に取る

ほこりがたまったり、差込が不完全な場合は、火災や感電の原因となります。

プラグの定期的な清掃を行い、根元までしっかりと差し込まれていることを確認してください。

強制

アースを確実に取付ける

本機の電源プラグは、アース端子付き2芯プラグです。アースは確実に行ってご使用ください。アースを取付けないと、故障や漏電のときに、感電する恐れがあります。

強制

注意

配線は電源を切ってから行う

感電の原因となります。また、ショートや誤配線により火災の原因となります。

強制

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり故障や火災の原因となります。

禁止

振動のないところに設置する

落下などの事故や、故障の原因となります。

強制

湿気やほこりの多い場所に設置しない

故障や感電の原因となります。

禁止

使用上のご注意

内蔵ハードディスクについて

本機は、精密機器であるハードディスクを搭載しております。衝撃を与えないよう、十分に丁寧なお取扱いをお願いいたします。

① 再生、録画中は電源プラグを抜かないでください。

必ずシャットダウン処理など電源プラグを抜ける状態にしてから、電源プラグを抜いてください。

② 通電中または、電源を切ってから約1分間はハードディスクが作動中ですので、絶対に移動や設置作業は行わないでください。

ハードディスクは消耗品です。+25℃の環境で、通電時間が20,000時間を越えたころより書き込みエラー等が発生しやすくなります。またそれ以上になるとモーターやヘッドの劣化等により寿命にいたる場合があります。ご使用時間が20,000時間未満での定期的なメンテナンスをお勧めします。

*ただしこの時間は目安であり、寿命等を保証するものではありません。

使用温度範囲について

使用温度範囲は、+5℃～+40℃です。この温度範囲外でご使用になると内部部品に悪影響を与えたり、誤動作の原因となる場合があります。特に、ハードディスクは特性上使用温度範囲外では、寿命に悪影響を及ぼします。+20℃～+30℃の範囲でご使用になることを推奨します。

お手入れについて

電源を切り乾いたやわらかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤にひたしてよく絞ってから軽くふいてください。その後乾いた布などで洗剤成分を完全にふき取ってください。

シンナーやベンジンなど揮発性のものは使用しないでください。

長時間使用しない場合

機能に支障をきたす場合もありますので、定期的に電源を入れて録画、再生が正しく行われることを確認してください。

モーションディテクタ（動き検知）機能について

本機に搭載されているモーションディテクタ（動き検知）機能は、一般に設定エリアないの輝度変化を感知して検出する機能です。以下のような場合、感知しにくい、感知しない、誤動作などが発生する場合があります。

- 低照度環境での撮影
- 被写体の動きが遅い
- 車のヘッドライトなど、外光が入る可能性のある環境
- 蛍光灯など、照明のチラツキがある環境
- 樹木など風で動きが発生する可能性のある環境

モーションディテクタ（動き検知）機能を使用する場合は、十分な運用テストを行いながら設定してください。誤動作が問題となる場合は、外部センサーのご使用をお勧めします。

録画データについて

運用の前に必ず試験録画を行い、正常に録画、再生が出来ることを確認してください。
万一の故障や事故や不具合に備えて、大切な記録データは定期的にバックアップをとることをお勧めします。記録されなかった情報や、再生されなくなったデータは補償しかねますので、あらかじめご了承ください。
機器の譲渡や廃棄の場合、録画データの取扱いには十分にご注意いただき、ご使用者側の責任において行ってください。

ウォッチドッグタイマについて

本機は軽微な障害が発生した場合、録画停止などの致命的エラーに至ることを未然に防ぐために再起動を行うウォッチドッグタイマ機能が搭載されています。運用中に自動的に再起動されることがありますが、故障ではありません。また、再起動中の数分間は録画されませんので、あらかじめご了承ください。

DVD/CD ディスクについて

DirectCDFormatted等フォーマット済みのCDは使用できません。データ用のCDもしくは、DVDを使用することをお勧めします。
本機でデータコピーを行ったDVD/CDは、全てのパーソナルコンピューターまたはDVD/CDドライブでの再生を保証するものではありません。
ディスクによっては、コピーが正常に行われない場合がありますが、これはディスクと本機搭載のドライブとの相性によるもので、故障または不良ではありません。

設置上のご注意

設置場所について

- 本機内部に熱がこもると、故障や誤動作の原因となる場合があります。

① 冷却ファンの吹き出し口や通風孔をふさがないでください。
② 上面、側面、奥行きに5cm以上の間隔をあけてください。
③ 冷却ファンは消耗品です。約30,000時間を目安に交換してください。交換作業は、販売店にご相談ください。

*ただしこの時間は目安であり、寿命等を保証するものではありません。

- 本機は水平な場所に設置してください。また、次の場所には設置しないでください。

① 振動の多い場所や、衝撃の加わる場所
② 結露しやすい場所、温度差の激しい場所、湿気の多い場所
③ 雑音源を発生するものの近くや、強い磁気を発生するものの近く
④ 蒸気、油分、硫化水素などのガスが発生する場所、塩分の多い場所
⑤ 直射日光の当たる場所などの高温になるところ

外部機器との組合せ、システム構築について

外部機器との組合せシステムを構築する場合は、事前に十分な操作確認を行ってください。組合せ、設定によってはシステム全体に影響を及ぼす可能性があります。
外部機器との接続は、必ず定格を超えないようにご注意ください。
本機のイベント（アラーム）機能などを、人命に関わるような用途、または重要な判断にはご使用ならないでください。
本機の故障、誤動作、不具合を含む何らかの理由によりシステムに及ぼした動作不具合、不便、損害、被害については、弊社は一切の責任や補償を負いかねますので、ご了承ください。

ネットワークについて

ネットワーク設定・運用には技術と経験が必要です。ネットワーク管理者以外の方が設定・運用すると、通信障害の発生、安全性や信頼性の低下の原因となります。ネットワークの設定、運用については、必ず現地のネットワーク管理者にご相談ください。
ルーター等の操作・設定につきましては、各機器の取扱説明書を参照して下さい。

インターネット回線を利用する場合、光回線（推奨）、ADSL、CATVインターネット等の常時接続インターネット環境が必要です。
インターネット接続業者（プロバイダ）による固定IPアドレスの取得（推奨）またはダイナミックDNSサービスへの登録が必要となる場合があります（社内LAN、VPN等のローカルネットワークの場合は不要です）。
インターネットを経由して接続する場合、ルーター等のポートフォワーディング（ポート変換）機能により、デジタルレコーダーにインターネット側からアクセスできる環境を構築する必要があります。
ネットワーク環境、パソコン環境（ファイヤーウォール、ウィルス対策ソフト、アクセス制限機能）によっては、デジタルレコーダーにアクセスできない場合があります。

DVRNS について

・DVRNS は、事前の予告なく内容変更・休止・終了することがあります。
・弊社は DVRNS に関連して生じた損害についても、一切のその責任を負いません。
・弊社が DVRNS の利用にあたって不適当と判断したユーザには、サービス提供を中止することがあります。

目次

製品の特徴 3
安全性と信頼性 3
優れた機能・性能 3
幅広い拡張性と利便性 3
1.設置編 5
1-1各部の詳細と説明 5
①背面パネル 5
②RS-485 7
③アラーム接続 7
④USBポート 9
⑤ファクトリーリセットスイッチ 10
2.設定編 11
2-1.前面パネルボタン 11
2-2.リモコンボタン 14
2-3.ログイン 15
2-4.設定メニュー 17
2-5.メニューの使用方法 18
①バーチャルキーボードを利用した文字列入力 18
②マウスの利用 18
2-6.システムの設定 19
①情報 19
②日時/時間の設定 22
③ハードディスクの設定 24
④ユーザー設定 27
⑤システム終了 30
⑥ログアウト 30
2-7.ネットワーク設定 31
①ネットワーク設定 31
②通知設定 36
2-8.装置設定 38
①カメラ設定 38
②オーディオ設定 41
③アラーム出力設定 42
④ディスプレー設定 44
⑤遠隔制御設定 47
⑥その他 48
2-9録画設定 49
①録画設定 49
②録画スケジュール設定 51
③プリイベント録画設定 54
④アーカイブ設定 56
2-10.イベント設定 57
①アラーム入力設定 57
②.モーション感知設定 60

③映像信号なし設定 64
④テキストイン設定 67
⑤.システムイベント設定 71
⑥イベント状態表示 74
3．運用編 76
3-1.電源を入れる/シャットダウンする 76
3-2.本機にログインする 77
3-3.ライブ映像を見る 78
①フル画面表示 78
②分割画面表示 78
③ピクチャーインピクチャーの表示調整 79
④画面グループ編集機能 79
⑤自動切替（シーケンシャル）表示 80
⑥フリーズ 81
⑦拡大機能 82
⑧色調整 82
⑨イベントモニタリング機能 83
⑩隠しカメラ機能 83
⑪外部モニター監視機能 84
⑫PTZ（パン・チルト・ズーム）カメラ制御 85
⑬マウスでの操作 87
3-4.録画する 89
①緊急録画 90
3-5.再生する 91
①再生モードに入る方法 91
②検索して再生する 93
3-6.バックアップ 110
3-7.印刷 114
3-8.ディスクミラーリング 114
4.参考資料 117
4-1.USBハードディスクのインストール 117
4-2.テキストイン情報のクエリー例 117
4-3.クリッププレイヤー 119
4-4.ウェブガード 120
①ウェブ監視モード 122
②ウェブ検索モード 123
4-5.時間重複 125
5.トラブルシューティング（故障かな？と思う前に） 126
6.システムログとエラーコードタイプ 128
6-1システムログ 128
6-2エラーコード 128
7.記録時間表 130
8.PTZカメラ対応リスト 132
9.仕様 134

製品の特徴

本デジタルビデオレコーダーは、16チャンネルのカメラ映像を録画できます。また、監視・再生の両モードの画質に優れ、以下のような特徴を備えています。

安全性と信頼性

- 独自の暗号化技術を使用したビデオ符号化により保存された映像と音声データの改ざんは事実上不可能。
- マルチメディアに適合した独自のファイルシステムとデータベースの使用によって、ハードディスクの効率的使用とシステムの信頼性の向上を実現。例えば、ハードディスク容量の90%にバッドセクターが発生しても、正常な10%の容量でシステムの正常運転が継続可能。
- OSおよびアプリケーションプログラムをフラッシュメモリに搭載した事で、万一全ハードディスクが故障しても、保存と検索以外の機能、例えば遠隔地へのイベントアラーム機能などは正常動作が可能。
- 自己診断機能を装備し、ハードディスクの状態などシステムの状態をシステムイベントに通知。ハードディスクの状態は、業界標準S.M.A.R.T.プロトコルを使用。
- ハードディスク温度の監視条件（限界温度）はユーザーが設定可能。

優れた機能・性能

- 16チャンネルビデオのライブ映像
- １～８チャンネル、９～１６チャンネルで各120ips、合計で全チャンネル240ipsの記録が可能。
- ４チャンネルオーディオ録音
- 完全な遠隔機能を提供?遠隔監視、遠隔検索、遠隔管理（遠隔監視の場合、同時に10名のユーザーがアクセス可能）
- ２倍、３倍、４倍デジタルズーム機能
- プログラマブルなグループとユーザー権限の設定
- ライブ映像を妨げないように、設定画面の透明度調整が可能
- 多様な録画モード（スケジュール、イベント、プリイベント）
- 手軽に使える検索モード（日付/時刻、カレンダー、イベント）

幅広い拡張性と利便性

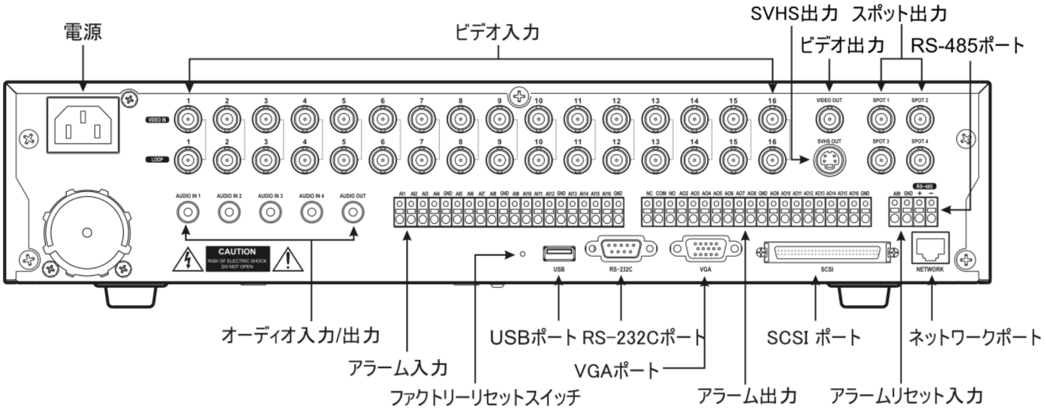
- カラーと白黒（CCIRとEIA-170）ビデオソースに対応
- VGAモニターサポート
- 外部モニターサポート
- ループスルービデオ端子
- USB2.0、３ポート装備（マウス、ソフトウェアのアップグレードとバックアップ用）
- 16アラーム入力とスケジュール制御可能な16アラーム出力
- POS/ATM接続をサポート
- 時間同期のためのネットワークタイムサーバーとクライアント機能
- USBマウスサポート（自動検出）
- 判り易いグラフィカルユーザーインターフェース（GUI）と多言語提供

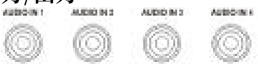
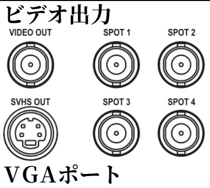
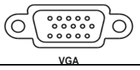
【参考】
本取扱説明書では、16チャンネルのデジタルレコーダーを扱っています。各チャンネルのデジタルレコーダーは、接続可能なカメラ数やアラーム数、ディスプレー可能なカメラ数を除いては同一です。便宜上、本取扱説明書の図や説明は、16チャンネルモデルを基本として作成されています。

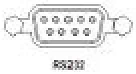
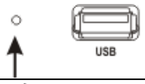
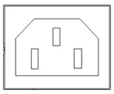
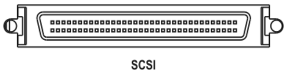
１．設置編

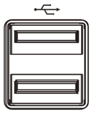
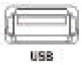
1-1 各部の詳細と説明

①背面パネル

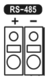


名称	説明
ビデオ入力	BNCコネクターのカメラ入力端子です。 【ご注意】 電源重畳方式のカメラシステムをご使用の場合、誤ってカメラ側へ接続するケーブルを接続しないでください。故障の原因となります。
ループスルー 接続	ビデオ入力のループスルー出力端子です。 【参考】 ループスルーコネクターは自動的に終端します。終端されていないケーブルを接続するとビデオの画質が低下するため、その場合はケーブルをループスルーに接続しないでください。
オーディオ入 力/出力 	音声入力（RCA）の接続端子です。 【参考】 本機にはオーディオ出力アンプがないため、アンプとスピーカーを準備してください。オーディオ入力は複数のソースを接続できますが、内蔵アンプのないマイクの場合、直接接続すると正常に動作しません。その場合は別途プリアンプを経てから接続してください。
ビデオ出力  VGAポート 	ビデオ出力（BNCコネクター）：メイン映像出力端子です。 VGAポート （ミニD-sub15ピン）：メイン映像出力端子です。 【参考】 ビデオ出力とVGAポートは同じ映像が出力されます。 スポットアウト：設定によりフル画面、シーケンシャル（自動切替）、イベント発生時の表示が可能です。

RS-232C 	RS-232Cポートは遠隔制御キーボードなどの外部機器を接続することができます。 デジタルレコーダーと接続するためにD-sub9ピン（オス）コネクターのあるモデムケーブルを利用します。
ネットワークポート 	LAN、WANなど遠隔監視を行うためのネットワークポートです。10/100Mbpsイーサネットコネクターのネットワークポートに RJ-45コネクターのLANケーブルを接続します。 デジタルレコーダーはコンピュータとネットワーク上で接続され、遠隔監視や遠隔検索、遠隔制御や遠隔ソフトウェアのアップグレードができます。
アラーム入力/出力	外部装置を接続してイベントが発生した場合に、 様々な動作をすることができます。 機械的、または電気的スイッチをAI（アラーム入力）とGND（グランド）コネクターに接続します。 （参照：41ページ「アラーム出力」） （参照：57ページ「アラーム入力」）
ファクトリーリセットスイッチ 	装置背面のUSBコネクターの左側にあるファクトリーリセットスイッチは、デジタルレコーダーを工場出荷時の初期設定に戻す場合にのみ使用します。
電源コネクター 	電源コードをデジタルレコーダーと電源コンセントに接続します。 本機には電源スイッチがないので、接続するとすぐに電源が入ります。 【安全上のご注意】 正しい電源電圧（交流100V）で使用してください。 また配線器具の定格を超えたり、たこ足配線などを行わないでください。 電源プラグのほこりなどは定期的に取り除いてください。 電源ケーブルが傷んだ場合は、すぐに使用をやめてください。
SCSIポート 	システムをスタートする前にSCSI装置を接続して、SCSI装置の電源を入れてからデジタルレコーダーを起動すると、SCSI装置が “HDD” 設定画面に該当保存装置を表示します。SCSI IDを０～１５の間の値（７は除く）のうちの一つに変更でき、最大８台まで装着できます。 【参考】 転送速度の遅いSCSI装置を使用されると、録画速度が遅くなる恐れがあります。 【注意】 SCSI装置を外す場合、まずシステムを終了してシステムの電源を落としてから、SCSI装置の電源を切りSCSI接続ケーブルを抜いてください。システムの電源が入っている状態でSCSI装置の電源を切ったりSCSIケーブルを抜いたりすると、システムが誤動作することがあります。

USBポート  （前面）  （背面）	USBポートにUSBマウスとUSBプリンター（PostScript TMにかぎります）を接続することができます。 また、USBポートはUSB外付ハードディスクやUSB CD-RWに録画データを出力する際に使用できます。 外付ハードディスクはできるだけDVRの近くに置き一般的に1.8mより短いケーブルで接続してください。 ハードディスクと一緒に提供されたUSBケーブルを使用してDVRに接続してください。 外付USBハードディスクやUSB CD-RWでのビデオバックアップについての内容は、この取扱説明書の“第4章運用”バックアップ”部分を参照してください。 そしてUSB<->シリアル変換器に接続してテキスト入力装置を複数台接続することができます。

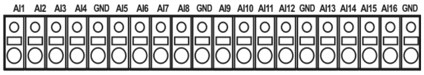
②RS-485



RS-485半二重シリアル通信信号方式で、外部装置または制御用キーボードのような制御システムによって遠隔制御ができます。
また、RS-485コネクターはPTZカメラを制御するのに利用できます。
外部機器のRX-/TX-、RX+/TX+をデジタルレコーダーのTX-/RX-、TX+/RX+に接続します。

マスター機器		スレーブ機器
RX-/TX-	→	TX-/RX-
RX+/TX+	→	TX+/RX+

③アラーム接続



> 参考:アラームコネクターを接続するには、ボタンを押したまま電線をボタンの穴に挿入します。しっかりと接続されたかどうかボタンを離して電線を引っ張り、抜けないかどうかを確認します。電線を抜く場合は電線の上のボタンを押したまま電線を引っ張ります。

AI1-16

AI（1?16）	アラーム入力 1?16
GND	グランド（5 個のコネクター）
NC	リレーアラーム出力（Normally Closed）
NO	リレーアラーム出力（Normally Open）
C	リレーコモン
AO2—16	アラーム出力 2-16
ARI	アラームリセット入力

外部装置を利用して、イベントが発生した場合にデジタルレコーダーが反応するように信号を送ることができます。機械的または電気的スイッチを AI（アラーム入力）と GND（グランド）コネクターに接続できます。
(参照：57 ページ　「アラーム入力」）

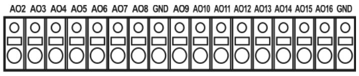
【設置上のご注意】
アラーム入力は、TTL レベルです。
動作時：GND（グランド）に短絡
非動作時：オープン

GND（グランド）

アラームの入力や出力のグランド側をGNDコネクターに接続します。

参考:GNDが表示されている全てのコネクターは共通です。

AO2—16（アラーム出力）



SDRX-1611は、ブザーやライトのような外部装置をオンオフできます。
外部装置をAO（アラーム出力）とGNDコネクターに接続します。
AOはアクティブ ロー（オープンコレクター出力）で動作し、電気的な仕様は12Vで30mAシンク電流です。

リレーアラーム出力

動作方法はNC（Normally Closed）とNO（Normally Open）のタイプの選択ができます。
電気的な仕様は125V ACで2A、250V ACで1A、30V DCでは1A（NC）
及び125V ACでは5A、250V ACでは2A、30V DCでは3A（NO）です。

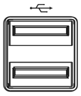
【設置上のご注意】
アラーム出力は、リレー出力です。
必ず定格範囲内でご使用ください。
NC接点容量：AC125V　2A、AC250V　1A、DC30V　1A
NO接点容量：AC125V　5A、AC250V　2A、DC30V　3A

ARI（アラームリセット）

アラームリセットコネクターで入力される外部信号によって、アラーム出力と内部ブザーをリセットできます。機械的または電気的スイッチを ARI（アラームリセット入力）と GND コネクターに接続できます。
ARI（アラームリセット入力）および GND（グランド）コネクターに接続します。

【設置上のご注意】 アラームリセットは、TTL レベルです。 動作時：GND（グランド）に短絡 非動作時：オープン 0.5 秒以上の接点メイクで検出します。

④USB ポート



USB ポートに USB マウスを接続することができます。
録画されたビデオクリップを USB 外付ハードディスクや USB CD-RW にコピーする際に使用できます。
外付ハードディスクはできるだけデジタルレコーダーの近くに置き、一般的に 1.8m 以下のケーブルで接続してください。
ハードディスクと一緒に提供された USB ケーブルを使用してデジタルレコーダーに接続してください。（参照：110 ページ　「バックアップ」）

プリンター接続

PostScript™プリンターを利用してDVRに保存されたビデオを出力することができます。DVRはPostScript™2.0以上のバージョンのプリンターをサポートし、カラーPostScript™プリンターがあればカラー映像を出力できます。プリンターを装置の前面か背面のUSBコネクターに接続してください。

参考:このDVRはPostScript™プリンターのみをサポートします。

参考:このDVRは、プリンターケーブルを付属していません。プリンターがUSB接続をサポートしていなければ、USBからパラレルポートに変換するケーブルを購入してご使用ください。

⑤ファクトリーリセットスイッチ

装置背面のUSBコネクターの左側にあるファクトリーリセットスイッチは、SDR X-1611を工場出荷時の初期設定に戻す場合にのみ使用します。

注意:工場初期化を行う場合、ユーザーが保存した全てのDVR設定値は消えてしまいます。本体の設定を初期化するために、まっすぐなピンが必要です。

ファクトリーリセットの方法

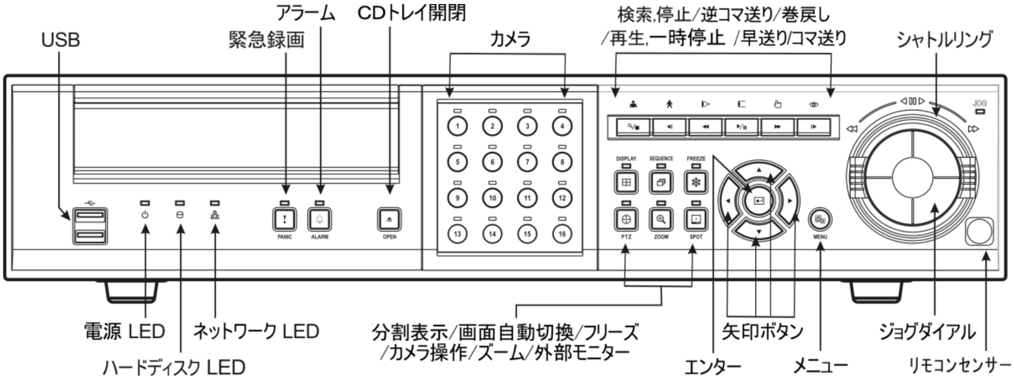
1. DVRの電源を切ります。
2. DVRの電源をもう一度入れます。
3. DVRが初期化されながら、前面パネルのLEDが点滅します。カメラ1～8番ボタンのLEDが点滅しているときにピンでUSBコネクターの左側にあるファクトリーリセットスイッチの穴を押します。
4. 前面パネルのLEDがもう一度すべて点くまでスイッチを押し続けます。

参考:ファクトリーリセットに成功したら、DVR前面パネルのLEDが5回点滅します。

5. 押していたピンをスイッチから外せば、DVRの全設定は工場出荷時の初期設定状態になります。

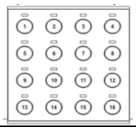
2.設定編

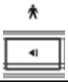
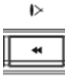
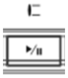
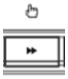
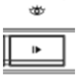
2-1.前面パネルボタン

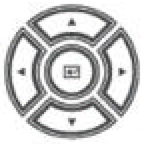
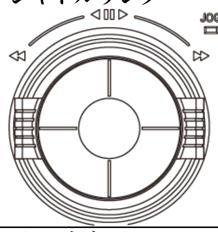
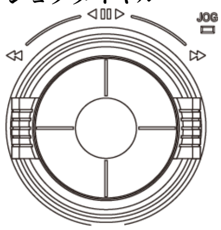


【参考】
リモコンセンサーがジョグシャトルの右下にあります。この部分が他の物で
隠れないようにしてください。隠れている場合リモコンが正常に動きません。

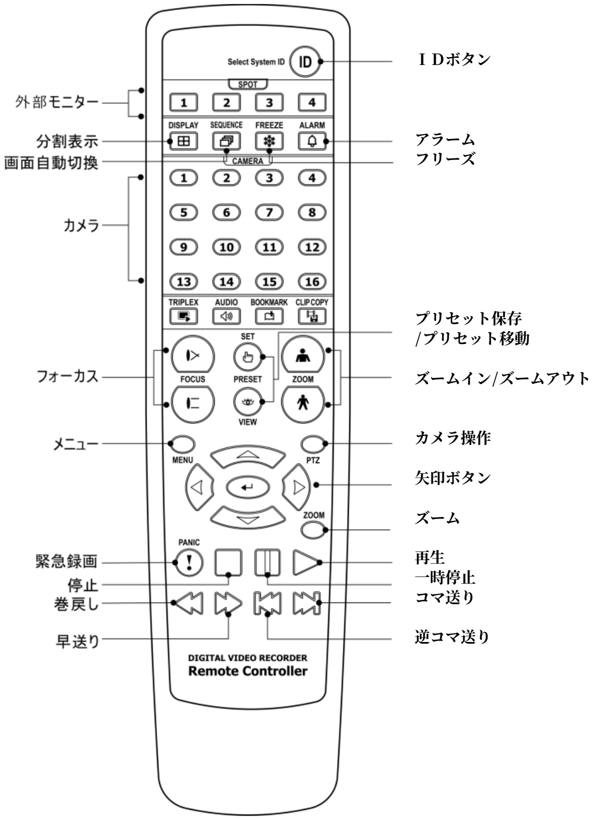
【参考】
一般家庭用PCのように、USBマウスを利用して各設定画面とメニューに移動することができます。

電源LED	この装置が稼動している間、電源LEDが点いています
ハードディスクLED	ハードディスクに映像を保存するか、保存された映像を検索する場合、ハードディスクLEDが点滅します。
ネットワークLED	この装置がモデムやイーサネットによって遠隔地に接続されている場合、データ送受信するとネットワークLEDが点滅します。
カメラボタン 	ライブ映像監視モードや再生モードでカメラボタンを押すと、該当カメラの映像を全画面で見ることができます。 また、パスワードを入力する場合、1から9までの数字をカメラボタンを利用して入力できます。
緊急録画（パニック）ボタン	緊急録画ボタンを押すと が表示されて、現在のスケジュールに関係なく映像を録画します。 ボタンをもう一度押すと緊急録画モードが解除されます。
アラームボタン	アラームボタンは、アラームが作動している間内部ブザーを含むDVRの出力をリセットします。、アラームが発生していない場合には、イベントログ検索画面を表示します。

検索/停止ボタン 	再生モードでこのボタンを押すとライブ映像に切り替わります。分割画面でのライブ映像監視中に検索/停止ボタンを押すとトリプレックス再生メニューが表示されます。 PTZモードではズームインボタンとして使用されます。
逆コマ送りボタン 	再生モードの一時停止状態で逆コマ送りボタンを押すと、現在の画面のすぐ前の画面を見ることができます。PTZモードではズームアウトボタンとして使用されます。
巻戻しボタン 	巻戻しボタンはビデオを高速で逆再生します。ボタンを押す たびに◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀に速度が切り替わります。画面にも◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀がそれぞれ表示されます。PTZモードでは近距離焦点ボタンとして使用されます。
再生/一時停止ボタン 	再生/一時停止ボタンを押すと、通常速度で再生します。再生中にボタンをもう一度押すと、一時停止になります。ビデオ再生中には画面に▶が、一時停止モードでは画面に❚❚が現れます。 PTZモードでは遠距離焦点ボタンとして使用されます。
早送りボタン 	早送りボタンを押すと、ビデオを高速で再生します。ボタンをもう一度押すと、▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶に速度が切り替わります。画面にも▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶がそれぞれ表示されます。PTZモードではプリセット保存ボタンとして使用されます。
コマ送りボタン 	再生モードの一時停止状態でコマ送りボタンを押すと、現在の画面の次の画面を見ることができます。 PTZモードではプリセット移動ボタンとして使用されます。
分割表示ボタン 	分割表示ボタンを押して別の分割画面に転換します。 可能な分割は4画面、9画面、16画面、PIPです。
画面自動切替ボタン 	画面自動切換ボタンを押すと、ライブ映像モードでチャンネルを自動切替(シーケンシャル)表示に切り替わります。
フリーズボタン 	フリーズボタンはライブ映像画面を一時停止させる時に使用します。再生モードからフリーズボタンを 2秒以上押すと、ワンタッチバックアップ画面が表示されます。
カメラ操作ボタン 	カメラ操作ボタンを押すとPTZモードがスタートし、設定されたPTZカメラを制御します。
ズームボタン 	ズームボタンは画面で特定の部分を拡大して見たい時に使用します。矢印ボタンで拡大画面の画面を移動させることができ、エンターボタンを押して拡大倍率を2倍、3倍、4倍に切替えることができます。
外部モニターボタン 	外部モニターボタンを押すと外部モニターに出力されるカメラを選択することが出来ます。

エンター（Enter）ボタン 	エンターボタンは、項目を選択するか入力事項を決定する場合に使用します。ライブ映像モードでエンターボタンを押すと、画像グループ編集モードに切り替わります。 （参照：79ページ「画面グループ編集機能」）
矢印ボタン 	矢印ボタンは、各メニュー設定と画面上で移動するために使用します。設定メニューで上/下矢印ボタンを使って数字を増減できます。また、PTZモードで矢印ボタンを利用して上下左右の移動を調節できます。監視・再生の4分割、9分割PiP画面で左/右ボタンを押すと画面のページが変わります。 PIPモードでは上/下矢印ボタンを押すとサブ画面の位置が移動します。PIPモードから上/下矢印ボタンを選択するとサブ画面の位置が反時計/時計方向に移動し、左/右ボタンを選択すると画面のページが変わります。
メニューボタン 	メニューボタンを押すと、環境設定画面が表示されます。ログイン画面が出る場合は設定権限のあるユーザーを選択してパスワードを入力してください。メニューボタンをもう一度押すと、現在のメニューや設定画面は閉じます。また検索モードで検索メニューを表示するのに使用します。また、再生モードでメニューボタンを2秒以上押すと、バックアップ設定画面がすぐに表示されます。
シャトルリング  	シャトルリングは再生モードで使用します。左右に移動し、離すと中央の位置に戻ります。時計回りに回すと前に再生され、反時計回りに回すと反対に再生されます。再生速度はリングが回転した角度によって異なります。再生速度は、◀、◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀、▶x0.5、▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶です。リングを離すと位置は中央に戻り、再生は一時停止されます。
ジョグダイヤル  	ジョグダイヤルは、再生モードをコマずつ見る場合に使用されます。時計回りに回すとコマずつ前に再生され、反時計回り回すとコマずつ逆再生されます。また、監視画面のPIPモードでジョグダイヤルを回すとPIP画面のサイズが大きくなったり（反時計回り）小さくなったりします（時計回り）。設定画面等で上下矢印ボタンによって数字を増減させるように、ジョグダイヤルを回して数字を増減させることができます。

2-2.リモコンボタン



IDボタン	IDボタンを押してリモコンのID値を設定できます。 詳しい設定方法は以下の“ リモコン接続 ”部分を参照してください。
外部モニター番号ボタン	1から4の間のSpot番号を押して、 該当Spotモニターに現れるカメラ画面を選んで設定できます。
フォーカスボタン	PTZモードで近/遠距離焦点ボタンとして使用します。
プリセット保存ボタン	PTZモードでプリセット保存に使用します。
プリセット移動ボタン	PTZモードでプリセットを呼び出すのに使用します。
ズームインボタン	PTZモードで画面を拡大するのに使用します。
ズームアウトボタン	PTZモードで画面を縮小するのに使用します。
停止ボタン	検索モードで前面パネルボタンと同じ役目をします。 PTZに関連した機能はありません。
早送りボタン	再生モードで前面パネルボタンと同じ役目をします。 PTZに関連した機能はありません。
逆コマ送りボタン	再生モードで前面パネルボタンと同じ役目をします。 PTZに関連した機能はありません。
コマ送りボタン	再生モードで前面パネルボタンと同じ役目をします。 PTZに関連した機能はありません。
再生ボタン	再生モードで通常速度で再生します。

一時停止ボタン	再生モードで画面を停止します。
巻戻しボタン	再生モードで前面パネルボタンと同じ役目をします。 PTZに関連した機能はありません。

リモコン接続

システムIDが0の場合は、リモコンIDを操作しなくてもリモコン入力でシステムを操作できます。（参照：１９ページ「システム情報」）
システムIDが1～16の場合には、リモコンでIDボタンを押してから1～16のうちIDに該当する数字ボタンを押すと、リモコンの入力によってシステムを操作できます。
複数のデジタルレコーダーのシステムIDが0の場合、リモコンを操作すると複数のデジタルレコーダーがリモコン操作されます。

2-3.ログイン

メニュー設定、検索などの本機のさまざまな機能を使用するためには、使用権限のあるユーザーでログインしてください。ユーザーを選択してパスワードを入れるとログイン、そのユーザーとしてログインします。
（参照：27ページ「ユーザー設定」）

【参考】
初期値のユーザーは、[admin]のみ登録されています。
ユーザー：admin
パスワード：（パスワードなし）

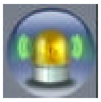
【参考】
通常パスワードを設定してご使用になることを推奨します。
パスワードを設定されていない状態では、警告メッセージが表示されます。

【参考】
USBマウスでの操作でログインすることも可能です。
USBマウスを右クリックすると、ログインウィンドウが表示されます。
パスワード項目の右側の…ボタンを選択してバーチャルキーボードを用いてパスワードを入力します。

【参考】
ビープ（アラーム音）の止め方
初回起動時、映像信号の入力がないチャンネルがある場合、ビープ（アラーム音）が鳴ります。
アラームボタンを押すとログイン画面が表示されます。ログインが完了するとビープが止まります。

（参照：38ページ「カメラ設定」）
（参照：64ページ「映像信号なし」）

2-4.設定メニュー

メニュー	設定項目	内容	参照ページ
システム			
	情報	言語設定、本体ファームウェアバージョンの確認、ファームウェアのバージョンアップ、システムログの確認などを行います。	20 ページ
	日付 / 時間	時計の設定、休日設定、タイムサーバとの連動設定などを行います。	23 ページ
	HDD	ハードディスクの状態（ディスクエラー、温度、S.M.A.R.T.）確認、運用設定などを行います。	25 ページ
	ユーザー	グループ、ユーザーの登録・削除、パスワードの設定、権限設定などを行います。	28 ページ
	システム終了	本機の電源を切れる状態にします。	31 ページ
ネットワーク			
	ネットワーク	遠隔監視を行うためのネットワーク設定などを行います。	32 ページ
	通知	イベント発生時のメール通知設定を行います。	37 ページ
装置			
	カメラ	接続されたカメラの表示設定、PTZ カメラ設定などを行います。	39 ページ
	オーディオ	接続された音声入力の設定を行います。	42 ページ
	アラーム出力	アラーム出力のタイプ、出力時間、スケジュールなどの設定を行います。	43 ページ
	ディスプレー	OSD、メインモニター、スポットモニター出力の設定を行います。	45 ページ
	遠隔制御	遠隔制御製品の設定を行います。	48 ページ
	その他	UPS（無停電電源装置）、電波タイマの接続設定を行います。	49 ページ
録画			
	録画	上書き、解像度、イベント録画、緊急録画などの設定を行います。	50 ページ
	スケジュール	録画スケジュールの設定を行います。	52 ページ
	プリイベント	イベント発生前からの録画設定を行います。	55 ページ
	アーカイブ	アーカイブ機能の設定を行います。	57 ページ
イベント			
	アラーム入力	アラーム入力のタイプ、連動動作などの設定を行います。	58 ページ
	モーション感知	モーション（動き検知）に関する設定、連動動作の設定を行います。	61 ページ
	映像信号なし	ビデオロスに関する設定、連動動作の設定などを行います。	65 ページ
	テキストイン	テキストインに関する設定、連動動作の設定を行います。	68 ページ
	システムイベント	録画エラー、ハードディスクの検査（S.M.A.R.T.など）、連動動作などを設定します。	72 ページ
	イベント状態	現在のイベント状態を確認できます。	75 ページ

2-5.メニューの使用方法

監視画面でメニューボタンを押すと、設定メニューに入ります。設定メニューに入るためにはメニュー設定権限のあるユーザーでログインしてください。

メニューのうち一つの項目を選択しようとする場合は、矢印ボタンで該当項目に移動してから前面パネルかリモコンの↵ボタンを押す、またはマウスの左ボタンで
該当項目をクリックしてください。

①バーチャルキーボードを利用した文字列入力

方向ボタンで移動し、 ボタンを押すか、矢印を合わせてマウスをクリックすると、文字が入力できます。
⇧ ボタン：大文字 / 小文字を切換えます。
← ボタン：カーソルの前の文字を消去します。
✖ボタン：カーソルの後の文字を消去します。
タイトルは空欄を含めて最高 31 字まで入力できます。
⇧ を選択してから ^を入力すると、コントロール文字を入力できます。例えば、^J は NL（New Line）、^M は CR（Carrage Return）として認識されます。これはテキストイン検索設定時に使用されます。

②マウスの利用

本機では、設定、操作などでマウスが利用できます。
マウス操作により、より簡単に設定が可能になります。

（例）
スクロールバーのあるメニューでマウスのホイールを上下に回すと、設定画面を上下にスクロールさせることができます。
2006-07-26 のように数字を増減させる場合にも、マウスのホイールを回すと数字を変更することができます。

2-6.システムの設定
①情報

メニュー→システム→情報を選択します。

サイト	入力されたシステムを設置した場所についての説明が表示されます（初期値はありません）。説明部分を選択して、↵ボタンを押すかマウスをクリックするとバーチャルキーボードが表示されます。
システムID	リモコンから複数のデジタルレコーダーを別々に操作する場合、または複数のデジタルレコーダーをRS-485で接続し遠隔キーボードによって接続する場合に機器を区別するのに使用します。RS-485で数台のシステムを接続して遠隔キーボードによって遠隔制御を行う場合に、2台以上のデジタルレコーダーに同じIDを使用することはできません。システムIDの初期値：00～99の範囲で設定が可能です。リモコンのIDは１～１６まで使用できます。
言語	言語選択が可能です。（初期設定：日本語）
バージョン	本機のファームウェアバージョンが表示されます。

<table>
<tr><td>アップグレード</td><td colspan="2">USBポートに接続されたUSBメモリのアップグレードファイルを選択してから、「設置」ボタンを選択してシステムをアップグレードします。

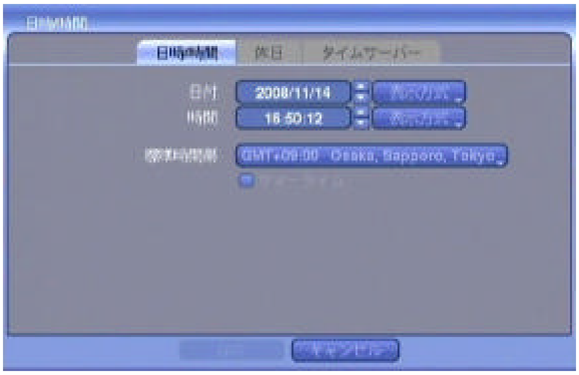
【参考】
（拡張子）ruiファイルがシステムアップグレード用のファイルです。
アップグレードファイルは弊社ホームページ（http://www.selco.ne.jp）からダウンロードするか、営業担当までお問合せください。

USBメモリー中に該当プログラムが見つからなかった場合には、画面上に失敗したというメッセージが表示されます。
アップグレード後に、本機は自動的に再起動されます。
再起動後、アップグレードされたバージョンのソフトウェアが実行されます。
【参考】
システムをアップグレードするためには内蔵ハードディスクにバッファ領域が必要です。
この領域がない場合はアップグレードボタンがアクティブになりません。
この場合、内蔵ハードディスクをいずれか1台フォーマットするとアップグレードボタンがアクティブになります。
【使用上のご注意】
ハードディスクのフォーマットを行うと、全てのデータが削除されます。フォーマットを行う前に重要なデータのバックアップを行うことをお勧めします。
（参照：110ページ「バックアップ」）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">設定</td><td colspan="2">設定した内容を保存し、他のデジタルレコーダーに反映させたり、他のデジタルレコーダーで設定された内容を本機に反映させることができます。
同一の設定を多店舗で運用される場合などに便利です。</td></tr>
<tr><td>読込</td><td>保存されている設定ファイルを読込む場合にはデジタルレコーダーの設定ファイルが保存されているUSBメモリーをデジタルレコーダーに接続して「読込…」を選択します。
「ファイル名」で設定ファイルを選択してから「読込」ボタンを選択します。
必要に応じて、ネットワーク設定も共に読込むかを選択できます。
【使用上のご注意】
設定読込みを行ってもシステムの時間関連の設定は変更されません。（日付/時間/標準時間帯/サマータイム）</td></tr>
</table>

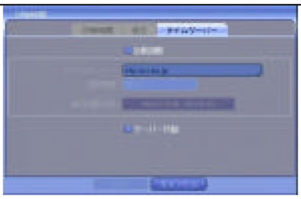
	移出	 USBポートに接続されているメモリーに「ファイル名」項目で入力したファイル名で設定ファイルが保存されます。 【使用上のご注意】 システムアップグレードおよび設定読込/移出用USBドライブのファイルシステムは、必ずFAT16かFAT32で初期化したものを使用してください。
システムログ表示	システムログリストの検索ができます。 システムログは最近5,000件まで表示されます。 （参照：44ページ「システムログ」） 遠隔接続で記録されたログの場合、一番右側の欄に アイコンが表示されます。	
録画データ	開始	ハードディスクに記録されているもっとも古い録画データの日時が表示されます。
	終了	ハードディスクに記録されているもっとも新しい録画データの日時が表示されます。
全てのデータ削除	データの削除を行います。 確認画面が表示され、もう一度「削除」を選択すると、全てのデータが削除されます。 【参考】 「全てのデータ削除」を選択しても、システムログはそのまま残っており、「全てのデータ削除」というシステムログが追加されます。	

②日時/時間の設定

メニュー→システム→日付/時間を選択します。



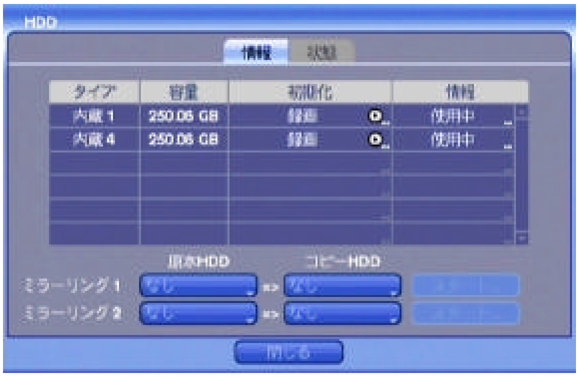
日時/時間	日付	方向ボタンを利用して日付を変更できます。 「日付-表示方式」を選択すると、日付表示方式の変更ができます。
	時間	方向ボタンを利用して時間を変更できます。 「時間-表示方式」を選択すると、時間表示方式の変更ができます。
	標準時間帯	その地域の時間帯を選択できます。 「サマータイム」を選択すると、サマータイム時間制の使用/解除できます。（通常は使用しません）
休日		設定画面下段の「+」を選択して、任意の日付を休日に追加します。 設定された日付の右側の✖表示を押して設定された休日を削除します。 設定された休日の日には、録画スケジュール設定で設定した休日スケジュールにしたがって録画が行われるようになります。

タイムサーバー		「自動調整」項目にチェックを入れ、以下項目を設定します。
	タイムサーバー	IPアドレスかドメイン名を入力します。 【参考】 ドメイン名を使用する場合は、あらかじめDNSサーバの設定を行う必要があります。 （参照：32ページ「LAN設定」）
	調整間隔	調整間隔毎にタイムサーバーと時刻を同期するようになります。
	前回調整日時	最後に同期の行われた時刻を表示します。
	サーバー作動	本機がNTPサーバーとして動作するようになり、他の装置が本機の内蔵時計に同期することが可能になります。

③ハードディスクの設定

メニュー→システム→HDDを選択します。

■情報



タイプ	設置されたディスクのタイプが表示され、「容量」項目には各ディスクの容量が表示されます。
初期化	初期化されたディスクの場合、「録画」、「使用しない」の両方の中で使用目的に合ったものが表示されます。 初期化されていない保存媒体を接続した場合には「初期化されていません」と表示されます。 CD-R（RW）およびDVD-R（RW）に保存するためのバッファ領域が設定されている場合は、⊙マークが表示されます。 CD-R(RW)およびDVD-R(RW)保存のためのバッファ領域が設定されているディスクが一つもない場合にはCD/DVDによるバックアップができません。 各ディスクの「初期化」を選択して録画用に初期化することができます。

	 用途を「使用しない」に選択してフォーマットすると該当ディスクは録画用に使用されません。 「CD/DVDコピー」を選択するとCD－R(RW)とDVD-R（RW）にコピーするためのバッファ領域を確保するようにフォーマットします。 【参考】 システムアップグレードのためには必ずフォーマットされている内蔵ハードディスクが1台以上設置されている必要があります。
情報	設置されたディスクのレコーディング時間の情報を表示します。 他のシステムで使用されたディスクを接続した場合「外部」と表示されます。 各ディスクの「情報」を選択して保存データの時間情報が確認でき、「削除」を選択して録画データを削除することもできます。

■状態

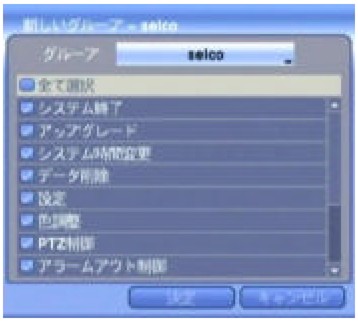
各ディスクの状態を表示します。

ディスクエラー	使用されたことのないディスクの場合は「初期化されていません」、正常に使用されているディスクの場合は「良好」と表示されます。 「良好」と表示されていても、ハードディスクの一部が使用できない場合は、エラー比率が「%」で表示されます。 エラー比率がユーザーの指定した比率より高い場合は「エラー」として表示され、システムイベントが発生します。 （参照：72ページ「システムイベント設定_HDD」）
温度	温度を読み取れないディスクの場合「N/A」、温度を読み取って正常な場合は「良好」と表示され、読み取られた温度が表示されます。 温度がユーザーの設定した温度以上の場合は「不良」と表示され、システムイベントが発生します。 （参照：73ページ「システムイベント_動作」）
S.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.機能をサポートしないディスクの場合は「N/A」、S.M.A.R.T.状態に異常があって24時間以内にディスクが使用できなくなる可能性のある場合は「不良」、正常な場合は「良好」と表示されます。 「不良」の場合はシステムイベントが発生します。

④ユーザー設定

メニュー→システム→ユーザーを選択します。

「+グループ…」を選択するとキーボード入力画面が現れ、最高15文字までグループ名を指定できます。



グループ名を指定してから、該当グループの「権限」を選択します。

設定できる権限のタイプとその内容は次の通りです。

システム終了	本機でシステム終了を遂行できる権限で、システムメニューで「システム終了…」を実行できます。
アップグレード	本機とRASplusでシステムアップグレードを実行できる権限で、システムメニューでシステム情報設定の「アップグレード」を実行できます。
システム時間の変更	本機とRASplusでシステムの日付/時間を変更できる権限で、システムメニューで「日付/時間」の設定を実行できます。
データ削除	本機とRASplusでシステムの保存データを消去できる権限で、システムメニューでシステム情報設定の「全てのデータ削除…」、ハードディスク設定の「削除」と「初期化」を実行できます。
設定	本機とRASplusでシステムを設定できる権限で、この権限がない場合は、システム終了とログアウトを除いた全ての環境設定を遂行することができません。
色調整	本機とRASplusで各カメラの明るさ、コントラスト彩度、色調値を調整できる権限です。（各カメラ番号ボタンを押し（2秒以上）すると、色調整画面が表示されます）
PTZ制御	本機とRASplusで各カメラのPTZを制御できる権限で、カメラ操作ボタンを押してPTZカメラを選択してから、PTZ関連ボタンによって制御できます。
アラームアウト制御	本機とRASplusでアラーム出力が発生した場合、これをリセットできる権限で、システムのアラームボタンまたはRASplusのアラーム出力制御ボタンを押して、アラーム出力をリセットできます。
隠しカメラビュー	本機とRASplusでの、ライブ映像、再生映像で「隠し1」、または「隠し2」に設定されたカメラ、またはOSDを通常の状態で表示させる権限です。（参照：38ページ「カメラ設定」）
システム検査	RASplusでシステム検査の結果であるシステム状態を見ることのできる権限で、RASplusで一括作業によってシステム検査を実行できます。
録画設定	本機とRASplusで録画設定部分に関連する設定を行える権限です。
検索	本機とRASplusで保存された映像を検索できる権限です。
バックアップ	本機とRASplusでバックアップできる権限で、RASplusではバックアップだけでなく、avi保存やJPEG保存などを実行できる権限です。

「ユーザー」を選択するとキーボード入力画面表示され、ユーザー名を指定できます。

ユーザー名を入力してからユーザーが属するグループを指定し、パスワードを入力します。
パスワードは最高8文字まで指定できます。
パスワードを入力する場合は、1～9までのカメラ番号ボタンを使用してください。

【参考】
前面パネルを使用できない場合には接続されているUSBマウスを右クリックすると、
ログインウィンドウが表示されます。
パスワード項目の右側の…ボタンを選択してバーチャルキーボードを用いてパスワードを入力します。

- 作成されたグループとユーザー項目右側の✖表示を押すと、グループやユーザーを削除できます。
- グループ「Administrator」とユーザー「admin」は削除できません。
- 画面上段に「ユーザーとグループ」タイトル右側の✖表示を利用して、グループ「Administrator」とユーザー「admin」を除いた全てのグループとユーザーを削除できます。
- システムまたは遠隔ソフトウェアで該当のシステムに現在ログインされている使用者はログアウトの状態でのみ削除できます。
- 作成されたグループやユーザーを選択して、その設定値を変更することができます。
- ユーザーの設定値を変更するには、パスワードの入力が必要です。
- グループ「Administrator」の権限オプションは変更できません。
- ユーザー「admin」を選択した場合、パスワード以外の他の情報は変更できません。

自動ログイン	本機の起動時に、設定されたユーザーで自動ログインされます。
	「しない」、またはあらかじめ登録されたユーザーのいずれかを選択します。 ユーザーを選択した場合、次回本機を起動した際に選択されたユーザーで自動的にログインされます。
自動ログアウト	設定された時間内に本機の操作がない場合、自動的にログアウトされます。
	「しない」、または時間設定を行います。 「しない」を選択すると、自動ログアウトされません。 時間設定（1分、3分、5分、10分、15分、20分、30分、1時間）を行うと、設定された時間内に本機の操作がない場合、自動的にログアウトされます。

⑤システム終了

本機の電源を切れる状態にします。

メニュー→システム→システム終了を選択します。

システムメニューで「システム終了…」を選択すると確認画面が表示され、もう一度「システム終了」を選択するとシステムは正常終了します。

終了画面が表示されますので、直接電源プラグを引き抜いて電源を落としてください。

⑥ログアウト

メニュー→システム→ログアウトadminを選択します。

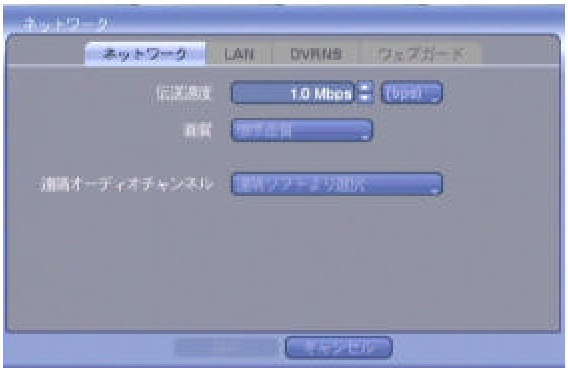
システムメニューで「ログアウト…」を選択すると確認画面が表示され、もう一度「ログアウト」を選択するとログアウトします。

2-7.ネットワーク設定

①ネットワーク設定

メニュー　→　ネットワーク　→　ネットワーク　を選択します。

■ネットワーク

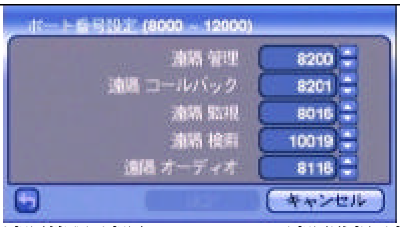


ネットワーク	伝送速度	設定した速度以下で映像がネットワークに伝送されます。伝送速度の単位は「bps」、または「ips」のどちらかを選択することができます。 【参考】 ネットワーク伝送速度を高めると録画速度が落ちる恐れがあります。 また、環境により設定された速度に満

		たない場合があります。
	画質	設定した画質で映像がネットワークに伝送されます。
	遠隔オーディオチャンネル	遠隔オーディオ動作時、選択したチャンネルのオーディオがRASplusで伝送されます。 遠隔ソフトより選択を選ぶとRASplusから選択されたチャンネルのオーディオが伝送されます。 【参考】オーディオ伝送時、ネットワーク環境によって音声が途切れたり、オーディオ同期が合わないこともあります。

■LAN設定

タイプ	手動	手動でLANのパラメータを設定することが出来ます。
	DHCP	DHCPサーバーから自動でIPアドレスを取得します。
	ADSL（PPPoE）	ADSLネットワークを使用できます。 IDの横のボックスを選択してボタンを押すと、バーチャルキーボードが表れ、ADSL接続のためのIDを入力できます。
IPアドレス		（初期設定：192.168.1.129）
ゲートウェイ		（初期設定：192.168.1.254）
サブネットマスク		（初期設定：255.255.255.0）
DNSサーバ		DNSサーバーのIPアドレスを入力します。 【参考】 「タイムサーバー機能」、「DVRNS機能」、「メール機能」でドメイン名を使用する場合は、必ずDNSサーバ設定が必要です。 （参照：23ページ「タイムサーバー」） （参照：33ページ「DVRNS」） （参照：36ページ「通知設定_メール」）

ポート番号設定…	 遠隔管理/遠隔コールバック/遠隔監視/遠隔検索/遠隔オーディオの各ポート番号を8000～12000までの番号で選択できます。 デジタルレコーダーのポート番号を変更した場合、PCの遠隔ソフトも同様に変更する必要があります。 【初期設定】 遠隔管理：8200 遠隔コールバック：8201 遠隔監視：8016 遠隔検索：10019 遠隔オーディオ8116 【参考】 ポートの変更は、ファイアウォールなどを使用する場合に、ファイアウォールで許容されるポート番号に変更する際に使用します。 各プログラムのポート値は互いに異なっていなければならず、ポート値が同じ場合はRASplusおよびウェブガードからアクセスできません。 ポート番号を変更する場合、RASplusの遠隔地点IPポート番号も同じ値に設定してください。 （＊ルータ等でポート変換などを設定している場合はこの限りではありません。） 詳しくは、RASplus取扱説明書を参照してください。 ポートを変更すると、設定内容を反映させるためにシステムが再起動されます。

■DVRNS

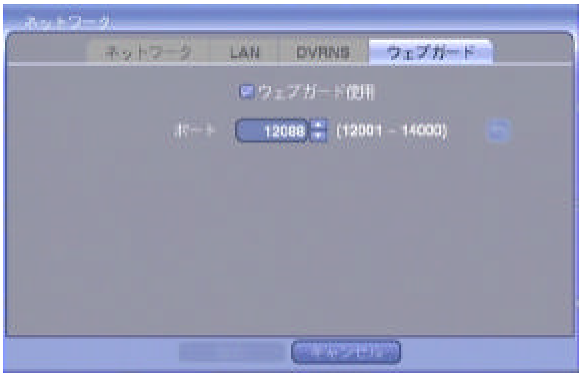
【参考】
DVRネームサービスとは、固有のDVRネームをDVRNSサーバーに登録して、DVRネームで該当デジタルレコーダーに接続できる機能です。固定ＩＰアドレスを取得していない場合にＤＶＲネームを使って、デジタルレコーダーに接続できます。
この機能を使用するためにはDVRネームをDVRNSサーバーに登録する必要があります。

【参考】
DVRNSは、事前の予告なく内容変更・休止・終了することがあります。
弊社はDVRNSに関連して生じた損害についても、一切のその責任を負いません。
弊社が DVRNS の利用にあたって不適当と判断したユーザには、サービス提供を中止することがあります。

DVRNSサーバ	DVRNSサーバのドメイン名 （初期設定：[dvrnames.net]）を入力します。 【参考】 ドメイン名を使用する場合は、あらかじめDNSサーバの設定を行う必要があります。 （参照：32ページ「LAN設定」）
ポート	DVRNSサーバーのポート番号を入力してください。 ポート番号は10000～12000の範囲で設定できます。
IPルータ(NAT)使用中	インターネット経由でデジタルレコーダーに接続する場合はチェックします。パソコンとデジタルレコーダーが同じLANの中にある場合はチェックを外します。
DVRネーム	DVRNSサーバーに登録するDVRネームを入力します。 入力後「確認」ボタンを押して入力したDVRネームが使用できるかどうかを確認できます。 【参考】 「確認」を選択して入力したDVRネームを確認しなければDVRNS設定を保存できません。 DVRネームを入力しないか、DNSサーバーに登録済みのDVRネームを入力すると、エラーメッセージが表示されます。

【参考】
NAT（NetworkAddressTranslation）を使用する場合、ルータの設定の説明書を参照してください。

■ウェブガード



ウェブガードを使用するためには「ウェブガード」画面で「ウェブガード使用」を選択して下さい。
（参照：119ページ「ウェブガード」）

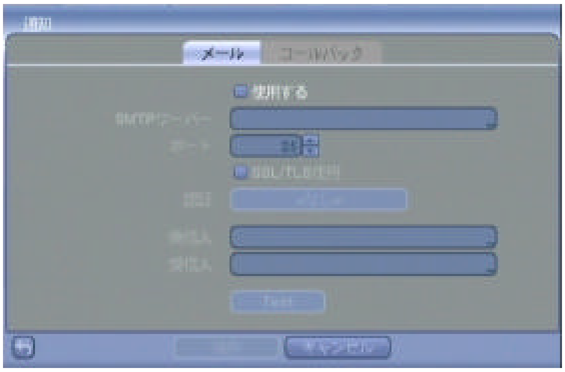
ウェブガード接続に使用するポート番号は12001～14000までの範囲で設定できます。

②通知設定

メニュー　→　ネットワーク　→　通知 を選択します。

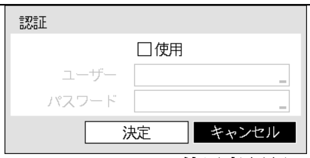
■メール

各種イベントの動作の通知を設定した場合、イベントが発生すると指定されたアドレスにメールを送信する機能です。



メール機能を使用する場合は、メール画面で「使用する」を選択してから、以下設定を行います。

SMTPサーバー	ドメイン名かIPアドレスを入力します。 【参考】 ドメイン名を使用する場合は、あらかじめDNSサーバの設定を行う必要があります。 （参照：32ページ「LAN設定」）
ポート番号	SMTPサーバーのポート番号を入力します。 初期設定：25
SSL/TLS使用	SSL接続を要求するSMTPサーバーを使用することができます。

	 SMTPサーバーに使用者認証が必要な場合“認証”を選択して使用者認証を使用するかどうかを判断してから「ユーザー」と「パスワード」を設定します。
発信人	発信人のアドレスを入力します。 【参考】 必ず@を含めた正確なEメールアドレスを入力してください。
受信人	受信人のアドレスを入力します。 【参考】 必ず@を含めた正確なEメールアドレスを入力してください。

■コールバック

“LAN”を選択すると、コールバックを受け取るサーバーのIPアドレスを設定できます。DVRが遠隔アクセスに失敗した場合、再アクセスを試みる際に“リトライ”の回数は1回から10回まで選択できます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の↰（初期化）アイコンを選択すると設定値が初期値に戻ります。

2-8.装置設定

メニュー　→　装置　→　カメラを選択します。

①カメラ設定

番号	選択/解除して、カメラをOn/Offさせることができます。 各カメラ番号の横のチェックボックスが選択されていればカメラがOn、空いていればOff状態です。選択されたカメラだけが監視画面に表示され、録画と再生ができます。 【参考】 映像入力のないチャンネルがOnに設定されている場合、再起動時などに映像信号なしと判断され、ビープ（アラーム音）が鳴ります。ご使用にならないチャンネルはOffに設定することをお勧めします。（参照：64ページ「映像信号なし」）
タイトル	カメラのタイトルを決めることができます。 入力文字数（最大）：半角31文字、全角15文字 【参考】 全角文字入力は、RASplusからのみ可能です。

使用	普通	通常の表示を行います。
	隠し1	「隠しカメラビュー」の権限がないユーザーでログインすると、設定されたカメラのライブ映像、再生映像がモニター表示されません。 「隠し1」では、映像は表示されませんが、カメラタイトル、OSDは表示されます。 （参照：27ページ「ユーザー設定」）
	隠し2	「隠しカメラビュー」の権限がないユーザーでログインすると、設定されたカメラのライブ映像、再生映像がモニター表示されません。 「隠し2」では、映像、カメラタイトル、OSDの全てが表示されません。 （参照：27ページ「ユーザー設定」）

解像度

各カメラの映像の録画解像度を“標準”、“高”あるいは“最高”に設定できます。
ただし、解像度を“最高”にすると当該カメラのグループの解像度がすべて“最高”に自動保存されます。
16チャンネルの機器では1番～8番カメラ、9番～16番カメラ、8チャンネルの機器では1番～4番カメラ、5番～8番カメラの2つのグループで分けられます。
【参考】各カメラグループの最大録画速度は同一カメラグループのすべてのカメラの解像度を“標準”に設定する場合、120ipsに、“高”に設定する場合は60ipsに、“最高”に設定する場合は30ipsに制限されます。
　同一カメラグループのすべてのカメラの解像度を“高”に設定するとグループ別録画速度の総合計内では各カメラは設定されたスケジュールの録画速度によって録画できる最大限の録画速度で録画され、グループ別実際録画速度の総合計が最大録画の制限値より大きい場合はその分各カメラの設定された録画速度を落として録画します。たとえば8チャンネルの機器では同一カメラグループの解像度を“高”に設定して、タイムラプス録画の録画速度は15ipsに、イベント録画の録画速度は30ipsに設定しておいたのであったら、通常ではすべて15ipsで録画し、1つのカメラだけイベントが感知されるとイベントが感知されたカメラは24ipsで録画を行い、ほかのチャンネルでは12ipsで録画します。
　16チャンネルの機器の場合、同一カメラグループ内で4つのカメラがOnになっていてそのカメラの解像度を“最高”に設定するとカメラ別の最大録画速度は7ipsになります。（下表参照）

16ch	“On”になっていて解像度“最高”のカメラの数								
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
Ips	—	30	15	10	7	6	5	4	3

8チャンネルの機器の場合、同一カメラグループ内で2つのカメラがOnになっていてそのカメラの解像度を“最高”に設定するとカメラ別の最大録画速度は15ipsになります。
（下表参照）

8ch	“On”になっていて解像度“最高”のカメラの数				
	0	1	2	3	4
Ips	—	30	15	10	7ips

■PTZ

モデル	PTZカメラのモデルを選択します。 「設定」画面でOnに設定したカメラのみ選択できます。 	
ID	制御するPTZカメラのIDを設定します。 設定が間違っていると、PTZの制御が行えません。 保存する際にID値が別のPTZのID値と重複する場合、警告メッセージが表示されます。 ID値が重複しないようにもう一度設定し直してください。	
ポート	「ポート」設定で、PTZカメラと通信するポートをRS-232CとRS-485のどちらか選択します。 もしネットワークや遠隔制御、テキストインなど別の装置が同一ポートを使用している場合は、その別の装置は使用できなくなるという警告メッセージが表示されます。	
	設定…	 「ボーレート」、「データ長」、「ストップビット」、「パリティー」値を正しく設定してください。 設定内容は、PTZカメラの設定と合わせる必要があります。 接続するPTZカメラの取扱説明書を参照してください。

②オーディオ設定

メニュー　→　装置　→　オーディオ

連動カメラ	カメラが録画される際に、選択されたチャンネルオーディオも一緒に録音されます。
オーディオ出力	当該チャンネルの全体画面を再生する場合、オーディオを再生します。 再生時には街頭チャンネルのフル画面モードのみオーディオが再生されます。

③アラーム出力設定

メニュー　→　装置　→　アラーム出力を選択します。

■設定

【参考】
番号1はリレー接点出力です

タイトル	アラーム出力タイトルを設定できます。
タイプ	「NO」/「NC」を選択できます。 「NO」ならばノーマルオープンで通常はオープン状態であり、アラーム出力発生時にクローズ状態になります。 「NC」ならばノーマルクローズで通常はクローズ状態であり、アラーム出力発生時にオープン状態になります。
出力期間	5秒～15分まで設定できます。 アラーム出力はここで設定された時間作動します。

■スケジュール設定

画面の左下にある「+」を選択してスケジュールを追加できます。

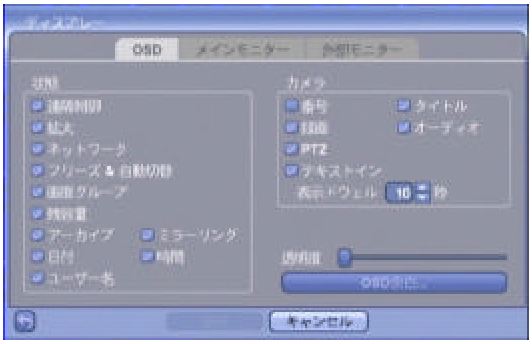
曜日	適用する曜日を選択します。	
範囲	スケジュールする時間帯を変更できます。	
モード	イベント	イベントに連動してアラーム出力されます。
	On	アラーム出力が無条件でOnになります。
	Off	無条件でOffになります。
チャンネル	アラーム出力するポートとビープ（アラーム音）のOn/Offを指定できます。	
✖	スケジュールを消すことができます。	

設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面の左下の↰（初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

④ディスプレー設定

メニュー　→　装置　→　ディスプレー

■OSD



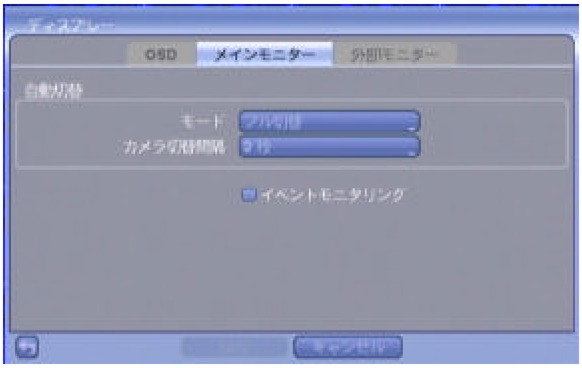
状態	監視画面下段の各種状態を表示する項目	
	遠隔制御	システムのIDが０かリモコンを設定して使用できる場合アイコンが表示されます。（参照：15ページ「リモコン接続」）
	拡大	画面が拡大状態の場合はアイコンが表示されます。
	ネットワーク	ネットワークが接続されるとアイコンが表示されます。
	フリーズ＆自動切替	一時停止状態で、アイコンを、自動切替モードの際にアイコンが表示されます。
	画面グループ	16画面ではない場合に何番目の画面であるかが表示されます。
	残容量	「上書」が設定されている場合は、アイコンで「上書」が設定されていない場合は、ハードディスクの残りの容量が%単位で表示されます。

	アーカイブ	アーカイブ機能が実行中の場合、アイコンが表示されます。
	ミラーリング	ミラーリング中の場合はアイコンを表示します。
	日付、時間	日付と時間が表示されます。
	ユーザー名	画面右下にログインしたユーザー名が表示されます。

カメラ	監視画面の各カメラ画面にカメラに関する情報を表示する項目	
	番号	カメラ番号がカメラ画面左上に表示されます。
	タイトル	カメラ名がカメラ画面左上に表示されます。
	録画	録画とスケジュールに関連したアイコンが表示されます。
	PTZ	カメラがPTZカメラに設定されている場合、PTZアイコンが表示されます。
	テキストイン	画面右下にテキストイン名が表示されます。「表示ドウェル」を選択してテキストイン文字を画面に表示する期間を設定することが可能であります。
オーディオ	該当チャンネルのオーディオが出力中の場合はアイコンが、RASplusに転送中である場合はアイコンが表示されます。	
透明度	メニューウィンドウの透明度を変更できます。	
OSD余白…	垂直、水平余白を設定できます。使用するモニターに合わせて適当なOSD位置を選択してください。	

“

■メインモニター

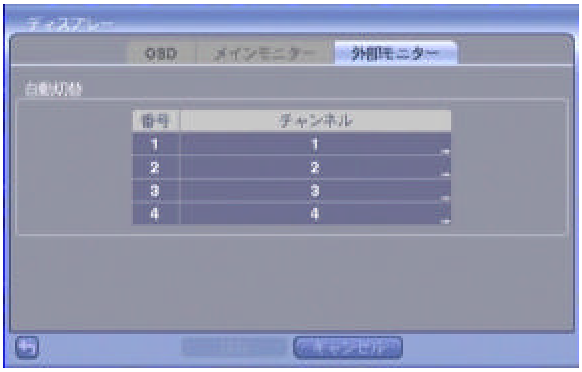


“

モード	メインモニターを「フル切替」または「切替」を選択します。 「フル切替」モード：フル画面、分割画面、それぞれページ全体ごとに自動切替（シーケンシャル）表示します。 「切替」モード：分割画面表示状態で、右下の1画面のみシーケンシャル表示します。その他の画面は、固定されます。 （参照：80ページ「自動切替（シーケンシャル）表示」

カメラ切替間隔	1秒～1分まで設定できます。 （参照：80ページ「自動切替（シーケンシャル）表示」）
イベントモニタリング	イベントモニタリング機能を使用することができます。 （参照：83ページ「イベントモニタリング機能」）

■外部モニター



SPOT出力を使用して別のモニターに映像を出力する際に自動切替（シーケンシャル）表示を利用することができます。
自動切替（シーケンシャル）表示に使用するカメラを選択/解除することができます。
設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の （初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

⑤遠隔制御設定

メニュー　→　装置　→　遠隔制御を選択します。

ポート	RS-232CかRS-485のどちらか一つを選択することができ、その場合PTZかモデム、テキストインなど別の装置が同一ポートを使用する設定を行うと、ポートが重複してその別の装置は使用できなくなるという警告が表示されます。
設定…	「ボーレート」、「データ長」、「ストップビット」、「パリティー」を設定します。
遠隔制御製品	遠隔制御製品を選択することができます。

設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の （初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

⑥その他

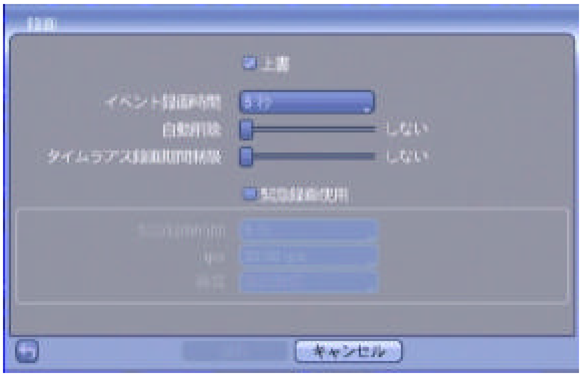
メニュー　→　装置　→　その他を選択します。

UPS	ポート	RS-232CまたはRS-485のいずれか一つを選択し、右側の「設定…」を選択して「ボーレート」、「データ長」、「ストップビット」、「パリティー」を設定することができます。 PTZカメラ、モデム、またはテキストインなどの装置が同じポートを使用しているとポートが重複するので警告が表示されます。
電波時計	ポート	RS-232CまたはRS-485のいずれか一つを選択し、右側の「設定…」を選択して「ボーレート」、「データ長」、「ストップビット」、「パリティー」を設定することができます。 PTZカメラ、モデム、またはテキストインなどの装置が同じポートを使用しているとポートが重複するので警告が表示されます。 【参考】 電波時計とデジタルレコーダーが正常に接続されていると30分ごとに電波時計の時刻にデジタルレコーダーの時刻が同期されます。 電波時計との接続および設定方法は電波時計の説明書を参照して下さい。

2-9.録画設定

①録画設定

メニュー → 録画 → 録画を選択します。



上書	録画ディスクが一杯になると古いデータから消去され新しいデータが保存されます。 「上書」を解除した場合は、録画ディスクがいっぱいになると録画が中止されます。OSD設定で「残容量」を選択している場合、画面にハードディスクの残容量が表示されます。 （参照：44ページ「ディスプレー設定_OSD」）
タイムラプス録画期間制限	“タイムラプス録画期間制限”を設定してイベント録画映像をより長期間保存することができます。制限期間は1日より最大99日まで設定することが可能です。本機能は録画ディスクの容量が設定した期間より十分大きく、設定した期間より前の録画データがある場合に作動し、上書きモードで録画ディスクがフルになって古いデータが上書きされるようになると設定した期間より前の“タイムラプス録画映像”データを上書きして新しいデータを保存します。 タイムラプス録画期間制限機能を使用しない場合は“しない”に

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">設定してください。

参考:
ディスクへ保存した映像の期間が設定した“タイムラプス録画期間制限”期間より短い場合は普段と同じく“イベント録画映像”と“タイムラプス録画映像”の中で古いデータを上書きします。

参考:
録画画質及び解像度、モーションあるいはその他のユーザの設定内容によってシステムの録画期間が変更されることもあるため場合によっては“タイムラプス録画期間制限”より設定した期間が保証されない場合もあります。

注意:“タイムラプス録画期間制限”機能を使用していない場合は、複数のハードディスクを搭載していても、録画時間順にハードディスクに保存されます。“タイムラプス録画期間制限”機能を使用し、複数のハードディスクを搭載している場合、同時間帯の映像がチャンネル別にあるいは録画モード別に異なるディスクへ保存することがあります。また、一度“タイムラプス録画期間制限”機能を使用すると設定すると本機能を解除してもこのような制限事項は続きます。もし、再び各ディスクへ時間順の録画を行うためには使用中の全ての録画ディスクをフォーマットする必要があります。</td></tr>
<tr><td>イベント録画期間</td><td colspan="2">イベント発生時の動作で連動録画が指定されている場合、そのイベント録画期間で指定した時間だけ連動録画が実行されます。</td></tr>
<tr><td>自動削除</td><td colspan="2">設定した期間が過ぎたら録画データを削除することができます。
削除可能な期間は1日（最小）～99日（最大）で設定できます。
自動削除機能を使用しない場合は「しない」に設定して下さい。

例えば、
「自動削除」を選択して期間を「30日」に設定すると現在時刻より30日前以降の時刻録画データのみ保存し、それより古い録画データは自動に削除されます。

録画データは毎日0:00に自動削除され、「自動削除」設定を変更するとすぐに適用されます。（設定された期間以前の録画データが削除されます。）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">緊急録画使用</td><td colspan="2">緊急録画機能を使用する場合、設定します。</td></tr>
<tr><td>緊急録画期間</td><td>設定された時間後に、自動的に緊急録画を解除します。
5分～1時間の範囲で設定できます。
自動解除機能を使用しない場合は「制限なし」を設定してください。</td></tr>
<tr><td>ips</td><td>緊急録画の際の録画速度を設定します。</td></tr>
<tr><td>画質</td><td>「最高」、「高」、「標準」、「低」から選択します。</td></tr>
</table>

設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の⮌（初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

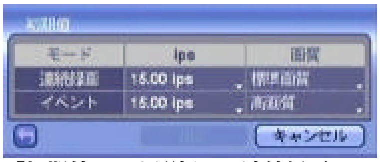
②録画スケジュール設定

メニュー → 録画 → スケジュールを選択します。

録画スケジュールのモードを“単純モード”と“高級モード”のどちらかを選択することができます。“高級モード”を選択すると各イベントについて別々の録画スケジュールを設定することができます。

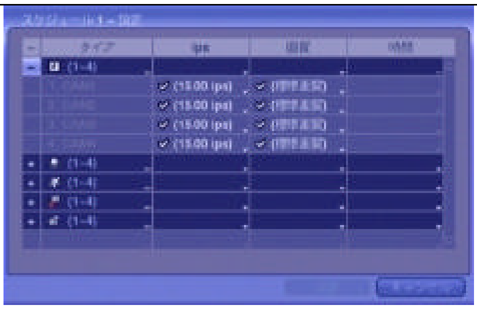
■単純モード

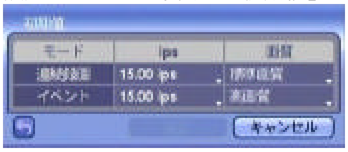
スケジュールオン	「スケジュールオン」を解除すると、スケジュールに関係なく録画が中断されます。 ユーザーが意図的にスケジュールを解除した状況であることを強調するために、各カメラ画面左上に⊗アイコンが表示されます。 その場合、緊急録画ボタンを押すと❗アイコンの表示とともに緊急録画が実行されます。	
曜日	録画スケジュールを設定する「曜日」の選択ができます。	
範囲	時間範囲の選択ができます。	
モード	録画しない	緊急録画ボタンを押さない限りスケジュール上の該当曜日、時間の範囲の中では録画はされません。

<table>
<tr><td></td><td>連続録画</td><td>画面左上段にが表示され、スケジュールされた時間帯ならばが画面左上に表示されて録画されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>イベント</td><td>画面左上に（赤色）が表示され、イベントが発生するとが表示されて録画されます。
プリイベント設定の場合、イベントが発生していないとき（黄色）とが表示されます。
イベントが発生してプリイベント録画が行なわれている場合は（赤色）とが表示されます。
（参照：54ページ「プリイベント録画設定」）</td></tr>
<tr><td></td><td>時間&イベント</td><td>画面の上にが表示され、スケジュールされた画質、ipsで録画されます。
イベントが発生すると（赤色）に変わり、設定されたイベント録画画質、ipsで録画されます。</td></tr>
<tr><td>チャンネル</td><td colspan="2">スケジュールを適用するカメラを選択します。</td></tr>
<tr><td>設定</td><td colspan="2">「ips」と「画質」を設定できます。
設定しなければ下図の「初期値…」で設定した内容が適用されます。

「初期値…」を選択して連続録画およびイベント録画モードの録画速度および画質の初期値をそれぞれ設定することができます。
各スケジュールに他の設定がない場合「初期値（連続録画およびイベント録画）」に設定されている録画速度および画質で連続録画およびイベント録画が行われます。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">スケジュールを削除することができます。</td></tr>
</table>

■高級モード

設定画面左下の「+」を押すと、新しいスケジュールが追加されます。

スケジュールオン	「スケジュールオン」を解除すると、スケジュールに関係なく録画が中断されます。 ユーザーが意図的にスケジュールを解除した状況であることを強調するために、各カメラの画面左上に アイコンが表示されます。 その場合、緊急録画ボタンを押すと アイコンの表示とともに緊急録画が実行されます。
曜日	録画スケジュールを設定する「曜日」が選択できます。
範囲	時間範囲の選択ができます。
設定	 【参考】 「タイプ」項目から表示するアイコンの意味は次のとおりです。 ：タイムラプス（時間） ：アラームイン ：モーション感知 ：映像信号なし ：テキストイン 【参考】 スケジュールの高級モード設定メニューから設定していないチャンネルは、上位スケジュールの設定値が適用されます。 高級モードが設定されている場合、特定チャンネルで複数のイベントが発生して録画する場合、各イベント録画に対する「ips」、「画質」、

	「解像度」、「時間」に設定値が異なると、より高い設定値を適用します。 ただし、「ips」、「画質」、「解像度」が全て最大値に設定されている場合は、「ips」はシステムがサポートする最大設定値で適用します。 「ips」、「画質」、「時間」を設定できます。 設定しなければ下図の「初期値」で設定した内容が適用されます。  「初期値」を選択して連続録画、およびイベント録画モードの録画速度、および画質の初期値をそれぞれ設定することができます。 各スケジュールに他の設定がない場合「初期値（連続録画およびイベント録画）」に設定されている録画速度、および画質で連続録画、およびイベント録画が行われます。 高級モードでは、イベント録画期間を設定することが可能であり、イベント発生の場合は、連続録画が設定されていたら指定した時間分連続録画が行われます。
✖	スケジュールを削除することができます。

③プリイベント録画設定

メニュー　→　録画　→　プリイベント録画　を選択します。

プリイベントを設定すると、イベント発生時に指定された期間の時間だけ前の映像を含めて録画します。

もしスケジュール上にイベントモードスケジュールが一つもない場合は、プリイベント録画のためにイベントモードスケジュールをリストに追加せよというアラームメッセージが表示されます。

参考:"時間&イベント"モードの場合にもアラームメッセージが表示されます。 "番号"を選択/解除して、プリイベントを設定するカメラを選択/解除できます。

録画する"ips"と"画質"を設定できます。
"期間"を設定できます。指定した時間が延びると設定可能な最大ips値が小さくなります。
参考:連続録画時間中はプリイベント録画が無効であること。
設定変更後に"保存"を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の↰（初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に変更されます。

④アーカイブ設定

メニュー　→　録画　→　アーカイブ　を選択します。

アーカイブ用ディスクがない場合、アラームメッセージが表示されます。アーカイブ機能を使用する場合は、先にシステム構成?HDD設定でディスクをアーカイブ用に初期化してください。

アーカイブオン	アーカイブ機能を選択/解除できます。
スケジュール	アーカイブ機能を実行する“曜日”と“範囲”を設定してください。選択された曜日に設定された開始時間から終了時間までアーカイブを行います。
アーカイブ範囲	アーカイブする範囲を設定します。 前回のアーカイブ位置から続けてアーカイブすることができ、特定範囲を指定することもできます。
上書き	アーカイブ用HDDが一杯になった場合に最初のデータを上書きしてアーカイブが実行されます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の↩（初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。
アーカイブとは、一定期間毎に指定した範囲の録画データをHDDに保存する機能です。データを複製記録するミラーリングと違い、範囲、日時を指定する必要があります。

2-10.イベント設定

メニュー　→　イベント　→　アラーム入力　を選択します。

①アラーム入力設定

イベントメニューで“アラーム入力”を選択してください。

番号	アラーム入力を選択/解除できます。
タイトル	キーボード入力画面を使用してタイトルを入力できます。
タイプ	アラームの入力タイプをNOまたはNCに設定できます。 （参照：42ページ「アラーム出力」
緊急録画	アラームイン発生の場合、録画することができます。 連動するアラームインチャンネルを選択します。 当該アラームインが発生すると録画が始まり、アラームインが解除されると録画が終了します。

■動作1

「動作1」および「動作2」画面では、「設定」画面で選択された番号のみアクティブになります。

<table>
<tr><td>録画</td><td colspan="2">アラーム入力発生時に連動録画するカメラを選択することができます。</td></tr>
<tr><td>アラーム出力</td><td colspan="2">実行されるアラーム出力チャンネルとビープ（アラーム音）を選択することができます。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">通知</td><td colspan="2">「メール」、「LAN1～5」、「警告ウインドウ」などを設定することができます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【参考】
通知（コールバック）機能を使用する場合、デジタルレコーダーをRASplusに登録する必要があります。</td></tr>
<tr><td>メール</td><td>イベント発生時に、設定されたEメールアドレスにイベント発生事実をメールで通知します。</td></tr>
<tr><td>LAN1～5</td><td>設定されたインターネット上の最大5ヵ所の遠隔地にイベント発生を通知します。
（参照：37ページ「コールバック」）</td></tr>
<tr><td>警告ウインドウ</td><td>イベント発生時にイベント状態画面が表示され、イベント発生を具体的に知らせます。
（参照：74ページ「イベント状態表示」）</td></tr>
</table>

アラーム入力発生時に、該当するスケジュールが「イベント」か「時間&イベント」モードに設定されていれば、「録画」項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、「アラーム出力」項目で設定された通りアラーム出力やビープ（アラーム音）が実行されます。
また、「通知」項目で設定された通知機能が実行されます。

ただし、スケジュール上のチャンネルに設定されているカメラに、「録画」項目で設定されたカメラが含まれている必要があります。

■動作2

PTZ	イベント発生の時、PTZカメラを特定プリセット位置に移動させることができます。
外部モニター	イベント発生の時に選択した外部モニター（スポットアウト）に、選択したカメラの映像を表示することができます。

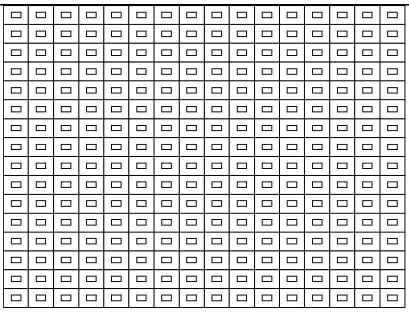
設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の（初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

②.モーション感知設定

メニュー　→　イベント　→　モーション感知　を選択します。

■設定

番号	選択/解除して、モーション感知機能を設定するカメラを選択/解除します。
感度	 モーション感度の敏感度を設定する画面が表示されます。 １（低感度）～5（高感度）の5段階の設定ができ、昼間と夜間を区分して設定することもができます。
エリア	エリアボタンを選択すると、画面が16x16区間にブロック分けされたモーション感知エリア設定画面に変わります。 エリア設定はモーション感知が行われるエリアをブロック単位で設定します。

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2">
エリア設定画面で方向ボタンを利用して、ブロック単位のエリア選択画面を上下左右に移動させます。
16チャンネルモデルでは選択画面が16個のブロック、8チャンネルモデルでは8個のブロックサイズの一列に該当します。
16チャンネルモデルでは1～16カメラ番号ボタンで、8チャンネルモデルでは1～8カメラ番号ボタンで各ブロックを選択/解除できます。
エリア設定モードで ボタンによってエリア設定メニューを呼び出して選択することができます。</td></tr>
<tr><td>
</td><td>「選択」：一列に該当するブロックを選択します。
「解除」：一列に該当するブロックを解除します。
「反転」：一列に該当する選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。
「全て選択」：画面全体のブロックを選択します。
「全て解除」：画面全体のブロックを解除します。
「全て反転」：画面全体で選択されたブロックは解除し、解除されたブロックを選択します。
「決定」：変更されたブロック設定を保存して、エリア設定を終了します。
「キャンセル」：変更されたブロック設定を保存せずに、エリア設定を終了します。</td></tr>
<tr><td>ミニマムブロック</td><td colspan="2">モーション感知のミニマムブロックを設定する画面が表示されます。

設定したブロックの個数以上のエリアでモーションが発生すると、モーション感知イベントが発生します。
昼間と夜間を区分して設定することができます。
【参考】
「昼間」、「夜間」の区分は、下項目の「昼間設定…」で行います。</td></tr>
<tr><td>エリアビュー</td><td colspan="2">モーションに対するデジタルレコーダーの反応を確認することができます。
エリアビューモードからは設定したモーション感知エリアが表示され、エリア内のモーション感知は赤色枠で表示されます。</td></tr>
<tr><td>モーション感知無視間隔</td><td colspan="2">モーションが感知された際、設定した間隔の間に発生するモーションに対してイベントログを残さず、遠隔地通報もしません。
1秒～15秒または「しない」を選択することができます。
【参考】
モーション感知無視間隔”を設定してもモーション感知連動録画は録画設定の通り録画します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>昼間設定...</td><td>昼間時間範囲を設定する画面が表示されます。

昼間に設定する時間範囲を設定します。時間は15分単位に設定でき、指定した時間範囲以外は夜間に区分されます。</td></tr>
</table>

■動作1

「設定」画面で選択された番号のみアクティブになります。

<table>
<tr><td>録画</td><td colspan="2">モーション感知時に連動録画するカメラを選択します。</td></tr>
<tr><td>アラーム出力</td><td colspan="2">連動出力されるアラーム出力チャンネルとビープ（アラーム音）On/Offを選択します。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">通知</td><td colspan="2">「メール」、「LAN1～5」、「警告ウインドウ」などを設定することができます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【参考】
通知（コールバック）機能を使用する場合、デジタルレコーダーをRASplusに登録する必要があります。</td></tr>
<tr><td>メール</td><td>イベント発生時に、設定されたEメールアドレスにイベント発生事実をメールで通知します。</td></tr>
<tr><td>LAN1～5</td><td>設定されたインターネット上の最大5ヵ所の遠隔地にイベント発生を通知します。
（参照：37ページ「コールバック」）</td></tr>
<tr><td>警告ウインドウ</td><td>イベント発生時にイベント状態画面が表示され、イベント発生を具体的に知らせます。
（参照：74ページ「イベント状態表示」）</td></tr>
</table>

モーション感知が発生した場合、該当するスケジュールが「イベント」や「時間&イベント」モードに設定されていると、「録画」項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、「アラーム出力」項目で設定されたとおり、アラーム出力かビープ（アラーム音）が実行されます。
また、「通知」項目で設定された通知機能が実行されます。

ただし、スケジュール上のチャンネルに設定されているカメラに、「録画」項目で設定されたカメラが含まれていなければなりません。

■動作２

PTZ	イベント発生の時、PTZカメラを特定プリセットに位置移動させることができます。
外部モニター	イベント発生の時に選択した外部モニター（スポットアウト）に選択したカメラの映像を表示することができます。

設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の（初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

③映像信号なし設定

メニュー　→　イベント　→　映像信号なし　を選択します。

■設定

“ビデオロス検知期間”を0.1秒～2.0秒の間に設定することができます。
設定した期間内にビデオロスが続いた時にビデオロスとして認識します。

カメラ映像検査	「カメラ映像検査」値を「しない」、または明るさを1～15の間で設定することができます。 明るさが設定した値より少ない場合、映像信号なしと検出されます。 数字が大きくなるほど感度が向上します。（反応しやすくなります） 【参考】 夜間など、真っ暗な撮影環境が想定される場合などは、映像信号なしと誤った判断をすることがありますので、実際に運用しながら設定することをお勧めします。

■動作１

録画	映像信号なしが発生した場合に連動録画するカメラを選択します。	
アラーム出力	連動出力されるアラーム出力チャンネルとビープ（アラーム音）On/Offを選択します。 【参考】 映像入力がないチャンネルは、ビープ（アラーム音）の設定を解除することをお勧めします。 再起動時などに映像信号なしと判断され、ビープ（アラーム音）が鳴ります。 （参照：38ページ「カメラ設定」	
通知	「メール」、「LAN1～5」、「警告ウインドウ」などを設定することができます。 【参考】 通知（コールバック）機能を使用する場合、デジタルレコーダーをRASplusに登録する必要があります。	
	メール	イベント発生時に、設定されたEメールアドレスにイベント発生をメールで通知します。
	LAN1～5	設定されたインターネット上の最大5ヵ所の遠隔地にイベント発生を通知します。 （参照：37ページ「コールバック」）
	警告ウインドウ	イベント発生時にイベント状態画面が表示され、イベント発生を具体的に知らせます。 （参照：74ページ「イベント状態表示」）

映像信号無しが発生した場合、該当するスケジュールが「イベント」や「時間&イベント」モードに設定されていれば、「録画」項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、「アラーム出力」項目で設定された通りアラーム出力やビープ（アラーム音）が実行されます。
映像信号無しが発生した場合、該当するスケジュールが「イベント」や「時間&イベント」モードに設定されていれば、「録画」項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、「アラーム出力」項目で設定された通りアラーム出力やビープ（アラーム音）が実行されます。
また、「通知」項目で設定された通知機能が実行されます。
ただし、スケジュール上のチャンネルに設定されているカメラに、「録画」項目で設定されたカメラが含まれていなければなりません。

■動作２

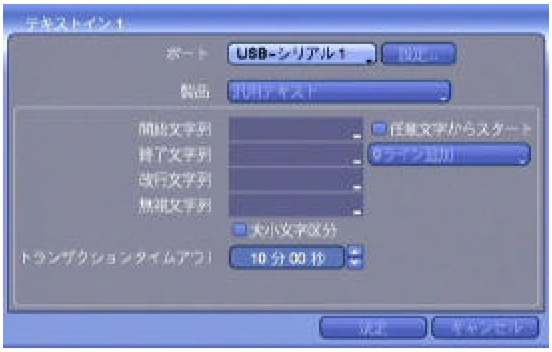
PTZ	イベント発生の時、PTZカメラを特定プリセット位置に移動させることができます。
外部モニター	イベント発生の時に選択した外部モニター（スポットアウト）に選択したカメラの映像を表示することができます。

設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の （初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

④テキストイン設定

メニュー → イベント → テキストイン設定 を選択します

設定	該当番号のテキストイン装置を選択することができます。 「設定」タイトルを選択するとポート設定を除いた他の設定を全てのテキストイン装置にできます。 【参考】 多くのチャンネルに大量のテキストインが同時に入力されるとシステムの性能に影響を与えるおそれがあります。
タイトル	テキストイン装置のタイトルを設定することができます。
ポート	RS-232CとRS-485のどちらかを選択でき、その場合PTZやモデム、キーボードコントローラーなど別の装置が同一ポートを使用していると、ポート値が重複してその装置は使用できないという警告が表示されます。 ポートをRS-232C、RS-485、USBポート1~8中でひとつを選択する場合、ポート設定ボタンがアクティブになります。「設定」ボタンを押して「ボーレート」、「データ長」「ストップビット」、「パリティー」値を正しく設定してください。 【参考】 USB-シリアルポートを使用する場合、システム稼動中USBケーブルを抜くとテキストイン機能が誤動作する場合があります。

製品	ポート設定の下の部分が該当テキストイン装置に合わせて設定画面が変更表示されます。 現在の設定画面の内容は、汎用テキストに関連した設定内容です。  	
	開始文字列	これに該当する文字列が入力された場合に一つのトランザクションがスタートするものと認識します。 開始文字列を「任意文字からスタート」に指定することができます。 その場合は、いかなる文字が入力されても一つのトランザクションがスタートするものと認識します。
	終了文字列	該当する文字列が入力された場合に一つのトランザクションが終わるものと認識されます。 終了文字列の前に「0ライン追加」を選択して、1～10の間の値で設定することができます。 終了文字列で文字列が入力されてから、ここで設定した追加ラインだけさらに入力されると一つのトランザクションが終わったものと認識します。
	改行文字列	行の終りを決定する文字列を入力することができます。 コントロール文字は⇧を押して^に続けて文字を選択すれば入力できます。 例えば、CarriageReturnは^Mで、LineFeed（NewLine）は^Jです。
	無視文字列	トランザクションを記録する場合に除外する文字列を設定することができます。
	大小文字区分	選択/解除して、「開始文字列」、「終了文字列「改行文字列」、「無視文字列」で設定した文字列が大小文字を区分する/しないを選択できます。 【参考】 コントロール文字の場合、「大小文字区分」の選択有無は影響しません。
	トランザクションタイムアウト	最後の文字列が入力されてから設定した時間の間、新しい文字列が入力されないと一つのトランザクションを終了します。 時間は5秒～15分の範囲で設定することができます。

■動作1

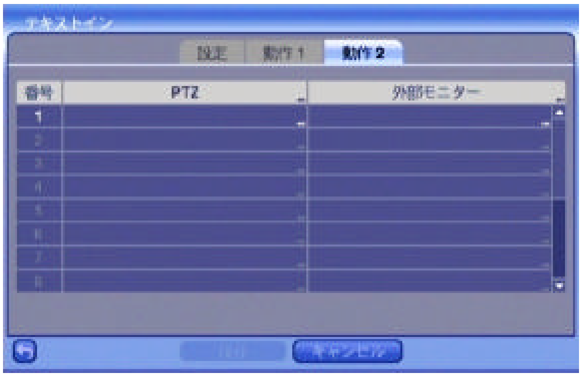
「動作1」および「動作2」画面では、「設定」画面で選択された番号のみアクティブされています。

録画	テキストイン発生時に連動録画するカメラを選択します。	
アラーム出力	連動出力されるアラーム出力チャンネルとビープ（アラーム音）On/Offを選択します。	
通知	「メール」、「LAN1～5」、「警告ウインドウ」などを設定することができます。 【参考】 通知（コールバック）機能を使用する場合、デジタルレコーダーをRA Splusに登録する必要があります。	
	メール	イベント発生時に、設定されたEメールアドレスにイベント発生をメールで通知します。
	LAN1～5	設定されたインターネット上の最大5ヵ所の遠隔地にイベント発生を通知します。 （参照：37ページ「コールバック」）
	警告ウインドウ	イベント発生時にイベント状態画面が表示され、イベント発生を具体的に知らせます。 （参照：74ページ「イベント状態表示」）

テキストインが発生した場合、該当するスケジュールが「イベント」や「時間&イベント」モードに設定されていれば、「録画」項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、「アラーム出力」項目で設定された通りアラーム出力やビープ（アラーム音）が実行されます。
また、「通知」項目で設定された通知機能が実行されます。

ただし、スケジュール上のチャンネルに設定されているカメラに、「録画」項目で設定されたカメラが含まれていなければなりません。

■動作２

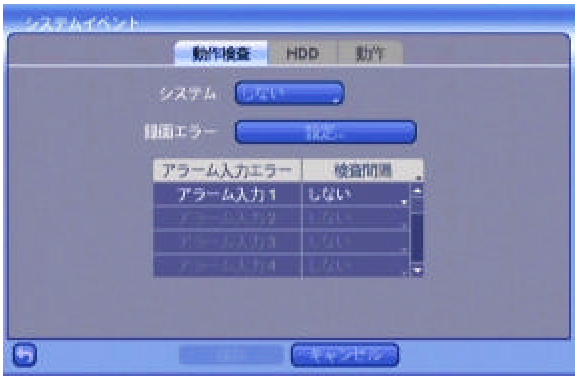


PTZ	イベント発生の時、PTZカメラを特定プリセット位置に移動させることができます。
外部モニター	イベント発生の時に選択した外部モニター（スポットアウト）に選択したカメラの映像を表示することができます。

設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の（初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

⑤.システムイベント設定

メニュー　→　イベント　→　システムイベント設定　を選択します

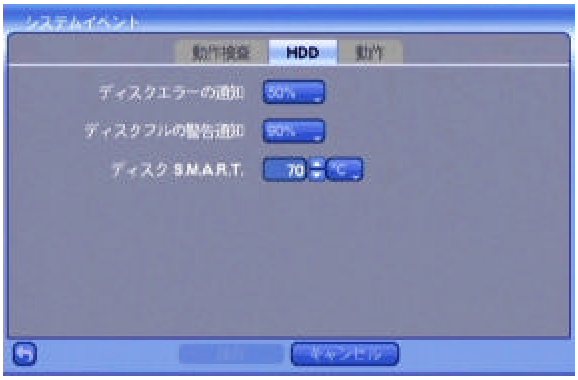


■動作検査

録画エラー	 「スケジュールオン」を選択してから曜日、時間範囲、および検査間隔を設定します。 を選択すると検査スケジュールを削除することができます。
検査間隔	各検査項目の「検査間隔」を設定することができます。 「システム」の場合、定期的な自己システムの点検が動作しないと異常と判断します。

アラーム入力エラー	アラーム入力がアクティブに設定されており、検査間隔の間にイベントが発生しない場合、異常と判断します。

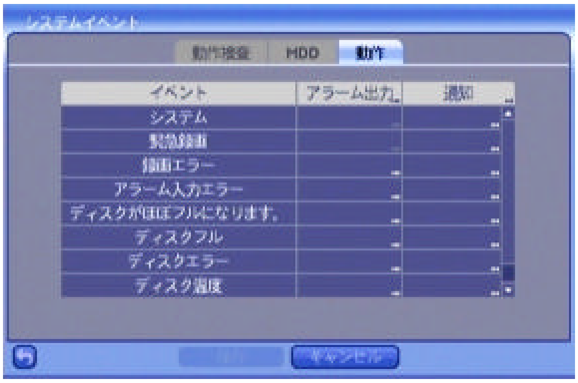
■HDD



<table>
<tr><td>ディスクエラーの通知</td><td colspan="2">10～90%まで10%単位で設定できます。
全体ディスク容量のうち、設定比率以上損傷し、それ以上使用できない場合は「ディスクエラー」というイベントを発生させます。</td></tr>
<tr><td>ディスクフル警告通知</td><td colspan="2">80%から99%まで設定することができます。
ディスクデータ容量が設定した%になった場合、イベントを発生させます。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ディスクS.M.A.R.T.</td><td colspan="2">デジタルレコーダーに設置された内蔵ハードディスクがS.M.A.R.T.モニタリングプログラムをサポートする場合、ハードディスクの状態を表示します。
「ディスクS.M.A.R.T.」項目の「設定」を選択してS.M.A.R.T.の設定をすることができます。

S.M.A.R.T.機能を使用する場合は、「使用する」を選択してアクティブにさせます。</td></tr>
<tr><td>検査時刻</td><td>一ヶ月に一回（毎月）または一週間に一回（毎週）、一日一回（毎日）などによって、S.M.A.R.T.の状態を検査する間隔と時刻を決めることができます。</td></tr>
<tr><td>温度</td><td>ハードディスクのうちどれか一つでも温度がこの設定温度値以上となった場合はユーザーに通知することが可能です。</td></tr>
<tr><td>前回検査日時</td><td>最近S.M.A.R.T.の状態を検査した時期を表示します。</td></tr>
</table>

■動作



<table>
<tr><td>アラーム出力</td><td colspan="2">各イベント発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとビープ（アラーム音）を選択することができます。
ただし、「システム」と「緊急録画」イベントの場合「アラーム出力」は選択できません。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">通知</td><td colspan="2">「メール」、「LAN1～5」、「警告ウインドウ」などを設定する
ことができます。
「システム」イベントの場合「メール」のみ設定することができます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【参考】
通知（コールバック）機能を使用する場合、デジタルレコーダーをRASplusに登録する必要があります。</td></tr>
<tr><td>メール</td><td>イベント発生時に、設定されたEメールアドレスにイベント発生をメールで通知します。</td></tr>
<tr><td>LAN1～5</td><td>設定されたインターネット上の最大5ヵ所の遠隔地にイベント発生を通知します。
（参照：37ページ「コールバック」）</td></tr>
<tr><td>警告ウインドウ</td><td>イベント発生時にイベント状態画面が表示され、イベント発生を具体的に知らせます。
（参照：74ページ「イベント状態表示」）</td></tr>
</table>

設定変更後に「保存」を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の（初期化）アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

⑥イベント状態表示

メニュー → イベント → イベント状態 を選択します

■イベント状態

イベントが発生したカメラ番号に対応した枠が黄色で強調されて表示されます。
イベントが発生してから5秒間点滅表示しますので、発生した瞬間のイベントも確認できます。

アラーム入力	アラーム入力の設定で、設定したとおりにアラーム入力イベントが発生した場合、該当「アラーム入力」チャンネルが黄色で強調されます。
モーション感知	設定した通りにイベントが発生した場合、該当チャンネルや項目が黄色で強調されます。
映像信号なし	設定した通りにイベントが発生した場合、該当チャンネルや項目が黄色で強調されます。
テキストイン	設定した通りにイベントが発生した場合、該当チャンネルや項目が黄色で強調されます。
アラーム入力エラー	システムイベント設定によってイベント状態が表示されます。
録画エラー	システムイベント設定によってイベント状態が表示されます。

緊急録画	項目は緊急録画を行っているとイベント状態が表示されます。
ディスクがほぼフルになります	録画設定で「上書」に設定していない場合、「ディスク警告通知」で設定した値に達するとイベント状態が表示されます。 （参照：72ページ「システムイベント設定_HDD」）
ディスクフル	録画設定で「上書」に設定していない場合、ハードディスクの容量がフルになりそれ以上録画できなくなるとイベント状態が表示されます。 （参照：49ページ「録画設定」）

■HDD

「HDD」タブを選択して現在のハードディスクの状態を調べることができます。
（参照：24 ページ「ハードディスクの設定」）

3．運用編

3-1.電源を入れる/シャットダウンする

1	電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込む 【安全上のご注意】 正しい電源電圧（交流100V）で使用してください。 また配線器具の定格を超えたり、たこ足配線などを行わないでください。 電源プラグのほこりなどは定期的に取り除いてください。 電源ケーブルが傷んだ場合は、すぐに使用をやめてください。
2	本機が起動します。 本機には電源スイッチがないので、 電源コードをコンセントに接続するとすぐに起動します。
3	シャットダウンする。 メニューボタンを押し、メニュー画面からシステム→システム終了を押します。
4	電源コンセントを抜く。 「システムが終了されました。電源プラグを引き抜いてください。」というメッセージが表示されましたら、電源コンセントを抜いてください。 【使用上のご注意】 電源を切ってから約1分間はハードディスクが作動中ですので、 絶対に移動や設置作業は行わないでください。

3-2.本機にログインする

1　ユーザーを選択し、パスワードを入力する。

カメラ番号ボタンを押し、パスワードを入力します。

【参考】
初期のユーザーは、[admin]のみ登録されています。
パスワード：admin
パスワード：（パスワードなし）

2　エンターボタンを押しログインする。

【参考】
通常パスワードを設定してご使用になることを推奨します。
パスワードを設定されていない状態では、警告メッセージが表示されます。

次回は表示しないにチェックを入れるとこのメッセージは今後表示されなくなります。

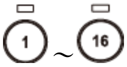
【参考】
USBマウスでの操作でログインすることも可能です。
USBマウスを右クリックすると、ログインウィンドウが表示されます。
パスワード項目の右側の。。。ボタンを選択して
バーチャルキーボードを用いてパスワードを入力します。

【参考】
ビープ（アラーム音）の止め方
初回起動時、映像信号の入力がないチャンネルがある場合、ビープ（アラーム音）が鳴ります。
ログイン後、アラームボタンを押すとビープ（アラーム音）が止まります。
（参照：38ページ「カメラ設定」）
（参照：64ページ「映像信号なし」）

３-３.ライブ映像を見る

①フル画面表示

1　カメラ番号ボタンを押して、表示するカメラチャンネルを選択する。



各カメラ番号ボタンを押すと、該当番号のカメラチャンネル映像が表示されます。

【参考】
カメラ番号ボタンは、背面パネルのカメラ入力端子に対応しています。

②分割画面表示

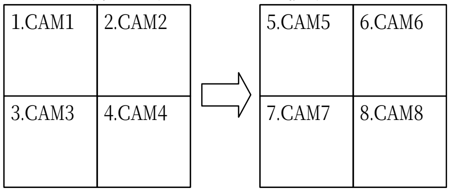
1　分割表示ボタンを押して、分割表示にする。

ボタンを押すごとに、[PIP（ピクチャーインピクチャー]→[4分割]→[9分割]→[16分割]に切換わります。

【参考】
8チャンネルモデルの場合は、[9分割]表示まででです。

2　分割ページを切替える。

[PIP]、[4分割]または、[9分割]表示のとき、左右矢印ボタンを押すと次のページに移動します。



【参考】
8チャンネルモデルの場合、[9分割]表示でのページ切替はできません。

③ピクチャーインピクチャーの表示調整

[PIP（ピクチャーインピクチャー）]表示状態で、サブ画面の移動、サイズ調整ができます

1	分割表示ボタンを押して、ピクチャーインピクチャー表示にする。 ライブ映像表示の状態で、分割表示ボタンを押し、PIP（ピクチャーインピクチャー）表示に切換えます。
2	サブ画面の位置を調整する。 矢印ボタンの上下を押すと、 サブ画面の位置を調整できます。
3	サブ画面のサイズを調整する。 ジョグダイアルを左右に回転させると、サブ画面のサイズを調整できます。

④画面グループ編集機能

画面グループ編集モードは、監視画面（PIP（ピクチャーインピクチャー）、4、9、16画面）や4画面以上の検索モードで、自分の望む配置でカメラ映像を見ることができるように設定する機能です。

1	分割表示ボタンを押して、分割表示にする。 ライブ映像の状態で、分割表示ボタンを押し、分割表示に切換えます。
2	編集モードに切換える。 分割表示の状態で、エンターボタンを押します。 選択されたカメラチャンネルが黄色の枠で囲まれます。
3	カメラ映像位置を選択する。 方向ボタンの上下左右で、カメラチャンネルを選択します。
4	はめ込むカメラチャンネルを選択する。 カメラ番号ボタンを押すと、3で選択された位置にカメラ映像がはめ込まれます。
5	グループ編集を終了する。 エンターボタンを押す、またはそのまま操作せずに15秒経過すると画面グループ編集モードが終了します。

⑤自動切替（シーケンシャル）表示

カメラの映像を自動的に切替えて表示します。
自動切替（シーケンシャル）表示は、ライブ映像時のみ有効です。

1　自動切替（シーケンシャル）表示を開始する。

画面自動切替ボタンを押します。
自動切替（シーケンシャル）表示になります。

自動切替（シーケンシャル）表示には、2つのモードがあります。
（参照：45ページ（ディスプレー設定_メインモニター」））
「フル切替」モード：
フル画面、分割画面、それぞれページ全体ごとに自動切替（シーケンシャル）表示します。
「切替」モード：
分割画面表示状態で、右下の1画面のみシーケンシャル表示します。その他の画面は、固定されます。

> 【参考】
> PIP（ピクチャーインピクチャー）表示状態では、いずれのモードでも右下画面（サブ画面）が自動切替（シーケンシャル）表示されます。

2　自動切換（シーケンシャル）表示を終了する。

自動切替（シーケンシャル）表示状態から、画面自動切替ボタンを押しします。
自動切替（シーケンシャル）表示が終了します。

> 【参考】
> 「フル切替」で動作中は、画面左下の自動切替（シーケンシャル）アイコンページ番号が切り替わります。
> ページを構成している全てのカメラ（PIP（ピクチャーインピクチャー）表示の場合、サブ画面）が非アクティブ状態、映像信号なし、隠しカメラの場合、該当ページをスキップします。隠しカメラの場合、「隠しカメラビュー」権限を無効に設定されているユーザーでログインしている場合、スキップされます
> （参照：27ページ「ユーザー設定」）

⑥フリーズ

ライブ映像での一時停止表示を行います。

1　画面をフリーズ（一時停止）状態にする。

ライブ映像状態で、ボタンを押すと画面が一時停止します。
ボタンのLEDが点灯し、画面左下にアイコンが表示されます。

> 【参考】
> ディスプレー設定で「フリーズ」のチェックを入れていると
> 画面左下にアイコンが表示されます。
> （参照： 44ページ「ディスプレー設定_OSD」）

2　フリーズ（一時停止）状態を解除する。

フリーズ状態でボタンを押すと、フリーズ状態が解除されます。

> 【参考】
> フリーズ（一時停止）状態で、メニューボタン、アラームボタン、緊急録画ボタンを押してもフリーズ（一時停止）状態は保持され
> ます。

⑦拡大機能

拡大機能は、ライブ映像時のみ有効です。

1　カメラチャンネルを選択する。

カメラ番号ボタンを押して、拡大表示させるカメラチャンネルを選択します。

2　ズームボタンを押す。

ズームボタンを押すと、ズーム表示させるエリアマスクが画面上に表示されます。

分割画面表示から、ズームボタンを押すと、
「ズーム：カメラ選択」が表示されますので、ズーム表示するカメラチャンネルをリストから選択します。

【参考】
ディスプレー設定で「ズーム」にチェックを入れていると、
ズームモードで アイコンが表示されます。
（参照：44ページ「ディスプレー設定_OSD」）

3　拡大する位置を調整する。

拡大表示させるエリアを方向ボタンで位置調整します。

4　表示倍率を変更する

エンターボタンを押すと表示倍率を×２、×３、×４に切り替えできます。

5　拡大表示を終了する。

ズームボタンを押すと、拡大表示モードを終了します。

⑧色調整

各カメラ番号ボタンを長押し（2秒以上）すると、選択したカメラチャンネルの色調整画面が表示されます。
各カメラの明るさ、コントラスト、彩度、色調を調整することができます。

【参考】
調整された内容は、録画映像（調整適用後の録画映像）にも反映されます。
（色調整した映像が録画されます。）

⑨イベントモニタリング機能

「イベントモニタリング」が設定されていたら、イベント
が発生した場合に、イベントが連動録画されるカメラ画面が、設定されている時間の間、フル画面表示に自動的に切替わります。

イベントモニタリングはイベント録画の間フル画面表示され、続いて新しいイベントが発生しなければ、イベントモニタリング画面に切替る前の画面に戻ります。

イベントモニタリングの状態でイベント録画時間が経過する前でも分割表示ボタンを押したりカメラ番号ボタンを押すと、その監視画面に切り替わります。
（参照：４５３８ページ「メインモニター」）

⑩隠しカメラ機能

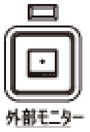
カメラ設定で特定カメラを「隠し１」、または「隠し２」に設定しログアウトすると、カメラのライブ映像、再生映像、OSDが表示されなくなります。

隠し１	「隠しカメラビュー」の権限がないユーザーでログインすると、設定されたカメラのライブ映像、再生映像がモニター表示されません。 （参照：３８ページ「カメラ設定」、２７ページ【ユーザー設定】） 「隠し１」では、映像は表示されませんが、カメラタイトル、OSDは表示されます。
隠し２	「隠しカメラビュー」の権限がないユーザーでログインすると、設定されたカメラのライブ映像、再生映像がモニター表示されません。 （参照：３８ページ「カメラ設定」、２７ページ【ユーザー設定】） 「隠し２」では、映像、カメラタイトル、OSDの全てが表示されません。

⑪外部モニター監視機能

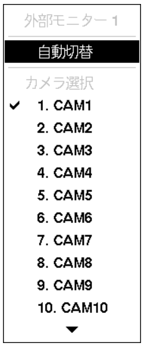
スポットモニターに表示する映像を設定します。

1　外部モニター選択メニューを表示させます。



外部モニターボタンを押して、外部モニター選択メニューを表示させます。

2　表示するカメラチャンネルを選択します。



「自動切替（シーケンシャル）表示」を選択すると、選択した外部モニターで自動切替（シーケンシャル）表示されます。
カメラ番号を選択すると、選択したカメラの映像を
フル画面表示します。

【参考】
カメラが非アクティブ状態、映像信号なし、隠しカメラの場合、該当ページをスキップします。
隠しカメラの場合「隠しカメラビュー」権限を無効に設定されているユーザーでログインしている場合、スキップされます。
（参照：27ページ「ユーザー設定」）

【参考】
設定で、映像が切り替わる時間の間隔を設定することができます。
（参照：45ページ「ディスプレー設定_外部モニター」）

⑫PTZ（パン・チルト・ズーム）カメラ制御

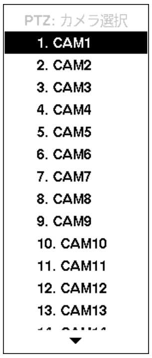
背面のRS-485かRS-232C端子のうちカメラがサポートするものをカメラに正しく接続してください。

> 【参考】
> PTZカメラを操作するためには、「PTZ制御」の権限を持ったユーザーでログインしてください。
> （参照：27ページ「ユーザー設定」）

1　PTZカメラ制御モードに切換える。

カメラ操作ボタンを押しします。
PTZカメラ選択ウィンドウが表示されます。

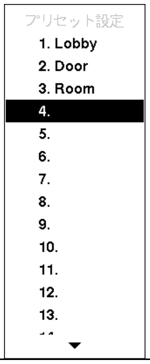
2　操作するPTZカメラを選択する。



PTZカメラ選択ウィンドウが表示されます。
操作するカメラを選択します。
該当するカメラチャンネル画面の、PTZアイコンが点滅します。

> 【参考】
> 操作できるPTZカメラがない場合には、「PTZカメラの入力はありません」というメッセージが表示されます。

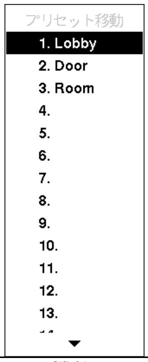
3　プリセットポジションを設定する。



PTZ制御モードで、方向ボタン、ズームボタン（検索/停止、逆コマ送りボタン）で登録するポジションにカメラを向けます。
早送りボタンを押すと、プリセット設定ウィンドウが表示されます。
登録する番号を選択します。
バーチャルキーボードを利用して名前を入力します。

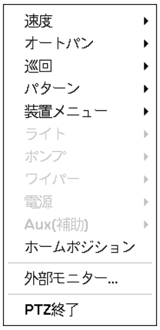
> 【参考】
> 最大登録数は、16ポジションまでです。

4 プリセットポジションに移動する。



PTZ制御モードで、コマ送りボタンを押すと、プリセット移動ウィンドウが表示されます。
移動したいポジションを選択し、エンターボタンを押すと、あらかじめ登録されたポジションにカメラが移動します。

5 PTZ機能メニューを表示する。



PTZ制御モードで、メニューボタンを押すと、PTZ機能メニューが表示されます。
操作したい機能を選択して、エンターボタンを押します。

> 【参考】
> 操作するPTZカメラがサポートしていない機能は選択できません。

6 ズームを調整する。

停止ボタン：ズームイン

または

コマ戻しボタン：ズームアウト

7 フォーカスを調整する。

巻き戻しボタン：近距離焦点

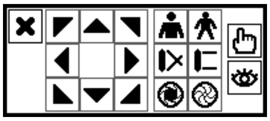
または

再生ボタン：遠距離焦点

8 PTZモードを終了する。

カメラ操作ボタンをもう一度押すと、PTZモードを終了します。

PTZモードでマウスを用いて簡単にPTZカメラを操作することができます。
PTZモードでマウスのポインタを画面の下に移動すると、下図のようなPTZ制御ボックスが表示されます。



PTZ 制御ボックスの ✖ をクリックすると PTZ 制御ボックスが消えます。
✖ アイコンの下をクリックしてからドラッグ＆ドロップしてボックスの位置を変更できます。
矢印アイコンをクリックして PTZ カメラを上/下/左/右など 8 方向に移動させることができます。
各アイコンの機能は以下のとおりです。

/ ズームイン / ズームアウト

/ 近距離焦点 / 遠距離焦点調整

/ しぼり開 / 閉

/ プリセット設定 / 移動

PTZ モード状態でマウスを右クッリクして、速度や自動回転などの PTZ カメラがサポートする拡張機能を使用することができます。

⑬マウスでの操作

■フル画面表示/分割画面表示の切換

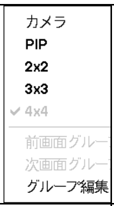
ライブ映像で、マウスを利用して分割画面モードで特定カメラの画面をクリックすると、そのカメラ画面をフル画面に切り替わります。
もう一度クリックすると、前の分割画面に切り替わります。

■分割表示の切換

分割画面モードでマウスホイールを（上）下に回すと、分割表示ボタンを押すのと同じように[PIP（ピクチャーインピクチャー）]→[4分割]→[9分割]→[16分割]画面（逆）順に画面構成が切り替わります。

■オプション機能

ライブ映像でマウスを右クリックすると、
左のようなライブ映像メニューが表示
されます。

ディスプレー		ディスプレーをクリックすると、左画面のメニューウィドウが表示されます。
	カメラ	カメラチャンネルを選択し、フル画面表示させます。
	PIP	PIP（ピクチャーインピクチャー）画面でマウスを右クリックすると、サブ画面の位置、サイズを調整（設定）できます。
	2×2	4分割画面になります。
	3×3	9分割画面になります。
	4×4	16分割画面になります。
	前画面グループ	画面分割の前のページに移動します。
	次画面グループ	画面分割の次のページに移動します。
	グループ編集	「グループ編集」をクリックするとカメラチャンネルのポジションを変更することができます。 マウスを右クリックすると表示されるメニューで別のカメラチャンネルを選択すると、選択したカメラ画面が後で選択したカメラチャンネルに切換わります。（参照：79ページ「画面グループ編集機能」）
自動切替	画面自動切替（シーケンシャル）表示します。	
フリーズ	ライブ映像をフリーズ（一時停止）表示します。	
拡大…	拡大モード（2倍、3倍、4倍デジタルズーム）で表示します。 拡大モードで明るい部分をクリックすると、その場所が拡大表示されます。 拡大画面をクリックしたままマウスカーソルを動かすと、拡大画面がマウスカーソルについて移動します。	
PTZ…	PTZカメラ操作モードに移動します。	
外部モニター	外部モニター設定モードに移動します。	
設定メニュー	設定メニューに移動します。	
検索	検索モードに移動します。	

3-4.録画する

本機には、録画ボタンはありません。
連続録画、スケジュール録画とも録画設定にて設定します。
（参照：49ページ「録画設定」）

「スケジュールオン」にチェックが入っていないと、連続録画、イベント録画とも実行されません。
「スケジュールオン」にチェックが入っていない場合、各カメラの画面上に アイコンが表示されます。

同じ時間で録画モードが重なった場合（または、重なっている場合）は、下表のとおり優先されます。

優先度	録画内容
1	「緊急録画」
2	録画スケジュール設定で「「番号」の大きい録画スケジュール」
3	録画スケジュール設定で「「番号」の小さい録画スケジュール」

ハードディスクの上書き設定（初期設定：「上書」）
（参照：49ページ「録画設定」）

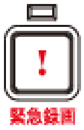
ハードディスクが一杯になった場合、中止するか、上書きするか選択することができます。
初期設定は「上書」に設定されており、最も古い録画から上書きします。
「上書」を解除するとディスクが一杯になった場合、録画が中止されます。

録画解像度を「標準」、「高」、または「最高」に設定することができます。
「標準」の場合、合計240ips(1～8ｃｈ、9～16ｃｈ各120ips)の映像を録画でき、「高」の場合、合計120ips(1～8ｃｈ、9～16ｃｈ各60ips)の映像を録画することができ、最高の場合合計60ips(1～8ｃｈ、9～16ｃｈ各30ips)の映像を録画できます。

①緊急録画

【使用上のご注意】
緊急録画を使用するには、メニュー→録画→録画から、「緊急録画使用」にチェックを入れておく必要があります。
（参照：49ページ「録画設定」）
「緊急録画使用」欄にチェックが入っていない場合、緊急録画ボタンをしても、緊急録画は開始しません。

1　緊急録画を開始する。

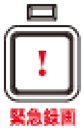


緊急録画ボタンを押すと、緊急録画が開始されます。
各カメラ画面上に、 アイコンが表示されます。

【参考】
緊急録画は、全ての録画（連続録画、アラーム録画）よりも優先されて録画されます。
他のモードで録画中の場合は、緊急録画で設定された内容で録画されます。

【参考】
緊急録画の「緊急録画時間」、「ips」、「画質」は、メニュー→録画→録画にて設定します。
（参照：49ページ「録画設定」）

2　緊急録画を終了する。



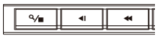
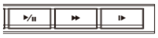
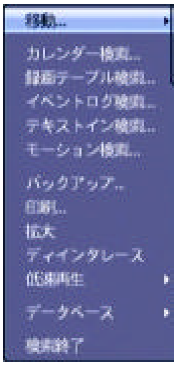
もう一度緊急録画ボタンを押すと、緊急録画が終了します。
または、「緊急録画時間」で設定された時間が経過すると、自動的に緊急録画が終了します。

3-5.再生する

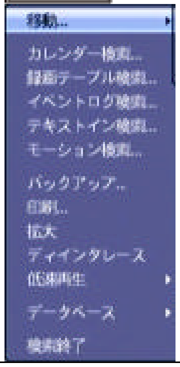
再生モードに入るためには、「検索」の権限を持ったユーザーでログインしてください。
「隠し」に設定されたカメラがある場合、隠し機能が再生モードでも同じように適用されます。

【参考】
録画をしながら映像を再生する場合、映像が通常の再生のスピードより遅くなることがあります。

①再生モードに入る方法

1	再生モードに入る。		
	 		前面パネルの巻き戻し、コマ戻し、再生、コマ送り、または早送りボタンを押すと、再生モードに入ります。 または、マウスの右クリックで再生/検索メニューを表示させます。（参照：12ページ「前面パネルボタン」） 分割画面でのライブ映像監視中に停止ボタンを押すとトリプレックスメニューが表示されます。メニューからカメラチャンネルを選択するとそのチャンネルが再生モードになります。（参照：92ページ「トリプレックス再生」）
2	再生/検索メニューを選択する。		
			再生モードは、最後に再生したモードか、録画された最後の部分です。 各種のイベント検索によっても再生モードに入ることができます。 再生モードでも画面グループの編集設定はそのまま維持され、監視画面のように設定することもできます。 PIP（ピクチャーインピクチャー）モードは再生モードでサポートしていません。 分割画面モードは、再生モードでもライブ映像モードのように使用できます。

3　再生モードを終了する。



前面パネルの停ボタンを押すと、再生を終了します。

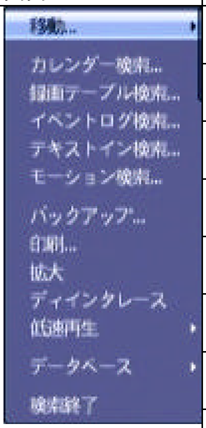
または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると再生を終了します。

■トリプレックス再生

ライブ映像監視中に分割画面の特定のカメラチャンネルの映像を再生する機能です。フル画面監視中には通常の監視モードとなります。(トリプレックス再生モードにはなりません。（参照：91ページ「再生モードに入る」）

②検索して再生する

【使用上のご注意】
録画中に検索した映像を再生する場合、再生スピードが若干遅くなることもあります
。
【参考】
検索を実行するには、ユーザー設定で「検索」の権限を設定されているユーザーでログインしている必要があります。

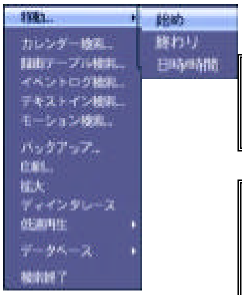
画面	項目	説明	参照ページ
	最初へ	最初の映像（最も古い録画データ）を再生します。	94ページ
	最後へ	最後の映像（最も新しい録画データ）を再生します。	95ページ
	日時指定検索	日時を指定して検索して再生します。	97ページ
	カレンダー検索	カレンダーから検索して再生します。	98ページ
	イベントログ検索	イベントログから検索して再生します。	102ページ
	録画テーブル検索	録画テーブルから検索して再生します。	100ページ
	テキストイン検索	テキストインログから検索して再生します。	105ページ
	モーション検索	モーション（動き検知）から検索して再生します。	108ページ
	バックアップ	バックアップ設定画面が表示され、バックアップが行えます。	111ページ
	印刷	現在映像を印刷します。PostScript?プリンターでのみ使用できます。	114ページ
	拡大	再生画面を拡大することができます。	―
	ディレイインターレース	ディレイインターレースを稼働させます。解像度を｢最高｣で録画した映像をフル画面で再生する場合のみ作動します。	―
	低速再生	再生画面を遅くできます。（x1/2、x1/3、x1/4、x1/6、x1/8）	―
	検索終了	再生/検索を終了します。	―

■初めの映像を再生する

1　検索メニューを表示させる。

再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

2　最初の映像（最も古い録画データ）を再生する。

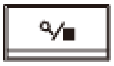


「初め」を選択すると、最初の映像（最も古い録画データ）を再生します。

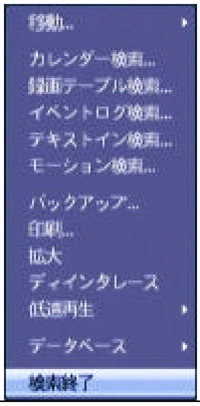
> 【参考】
> 表示される画面は、検索前の表示スタイル（フル画面/4分割/9分割/16分割）で表示されます。

> 【参考】
> 自動削除機能を設定している場合は、設定されている日数以前の録画データは再生されません。
> また、「上書」モードで運用している場合は、上書きされる以前のデータは再生されません。
> （参照：49ページ「録画設定」）

3　再生を終了する。



前面パネルの停止タンを押すと、再生を終了します。



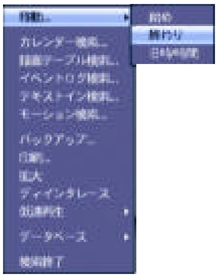
または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると、再生を終了します。

■終わりの映像を再生する

1　検索メニューを表示させる。

再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、
マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

2　最後の映像（最も新しい録画データ）を再生する。

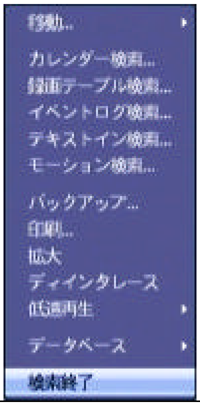


「終わり」を選択すると、最後の映像（最も新しい録画データ）を再生します。

> 【参考】
> 表示される画面は、検索前の表示スタイル（フル画面/4分割/9分割/16分割）で表示されます。

3　再生を終了する。

前面パネルの停止ボタンを押すと、再生を終了します。



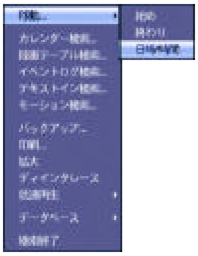
または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると、再生を終了します。

■日時指定検索

1　検索メニューを表示させる。

再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

2　日時指定検索を選択する。



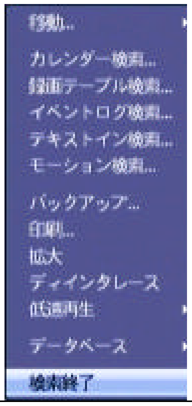
「日時指定検索…」を選択すると、日時指定検索ウィンドウが表示されます。

3　日時を入力する。

指定する年月日、時間を選択し「決定」を押します
。

【参考】
表示される画面は、検索前の表示スタイル（フル画面/4分割/9分割/16分割）で表示されます。
【参考】
自動削除機能を設定している場合は、設定されている日数以前の録画データは再生されません。
また、「上書」モードで運用している場合は、上書きされる以前のデータは再生されません。
（参照：49ページ「録画設定」）

4　再生を終了する。



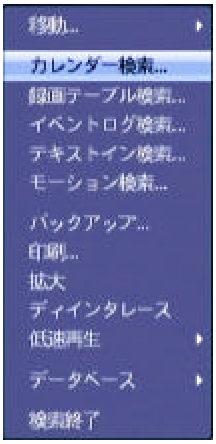
前面パネルの再生モードボタンを押すと、再生を終了します。
または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると、再生を終了します。

■カレンダー検索

1　検索メニューを表示させる。

再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

2　カレンダー検索を選択する。



「カレンダー検索…」を選択すると、カレンダー検索ウィンドウが表示されます。

3　日時を選択する。

映像データの存在する日にちのみ、白字で表示されます。
録画データの存在する日にちを選択すると、録画データの存在する時間帯が、画面下部の時間バーに表示されます。
1時間単位で時間バーから選択できます。

4	セグメントを選択する。（必要に応じて）

時刻設定変更して録画した場合、同一時間帯に一つ以上の録画データが存在することがあります。
その場合、「セグメントを選択してください」の欄がアクティブになりますので、いずれかのセグメントを選択してください。
（参照：125ページ「録画重複」）

> 【参考】
> 「セグメント」の文字の前の数字が小さいものが、後（時間変更後）に録画したデータです。

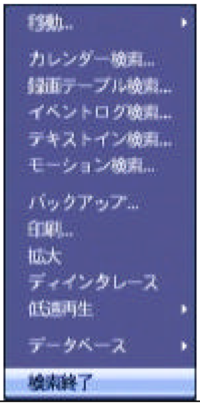
5	再生を開始する。

決定を押すと、該当する日時の録画データが再生されます。
再生画面は、一時停止状態で表示されます。

> 【参考】
> 現在表示されている画面には、録画された映像がないこともあります。
> その場合、分割表示ボタンを押して16分割画面に切り替えると、該当時間帯の映像が保存された画面を簡単に探すことができます。

6　再生を終了する。

前面パネルの停止ボタンを押すと、再生を終了します。



または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると、再生を終了します。

■録画テーブル検索

1　検索メニューを表示させる。

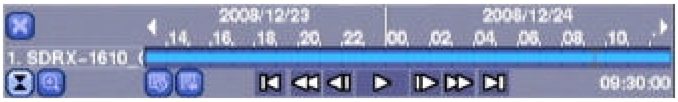
再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

2　録画テーブル検索を選択する。

「録画テーブル検索…」を選択すると、イベントログ検索ウィンドウが表示されます。

3　録画テーブルから再生する時刻を指定する。

検索メニューより“録画テーブル検索”を選択すると下図のような
録画テーブル検索メニューを表示します。



(チャンネル別表示）ボタンを選択すると現在の画面へ表示する
チャンネルの録画情報がチャンネル別に表示されます。
（併合表示）ボタンを選択すると現在画面へ表示する
全チャンネルの録画表が併合されて表示されます。

拡大表示ボタンを選択すると8時間の録画情報が表示されて
1分単位区間で構成されます。
（縮小表示）ボタンを選択すると24時間の録画情報が表示されて
3分単位区間で構成されます。

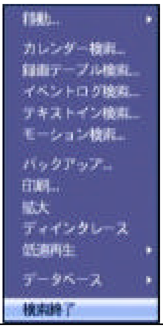
> 参考:区間別録画映像が複数のモードで録画されていたら“パニック→プリイベント→イベント→タイムラプス”録画の順に表示します。録画テーブルへ表示する録画モード別色相情報は下表をご参照ください。

録画モード	パニック	プリイベント	イベント	タイムラプス
色相情報	赤色	黄色	紫色	青色

ボタンを選択すると検索メニューが表示され、必要な機能を行うことができます。ボタンを選択するとカレンダー検索メニューが表示されます。
カレンダーメニューより日付を選択すると選択された日付の最初に当たる時間に該当する映像が画面へ停止状態で表示されます。
（参照：98ページ「カレンダー検索」）

5　再生を終了する。

前面パネルの再生モードボタンを押すと、再生を終了します。



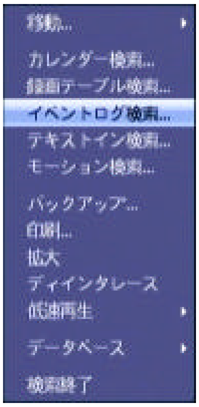
または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると、再生を終了します。

■イベントログ検索

1　検索メニューを表示させる。

再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、
マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

2　イベントログ検索を選択する。



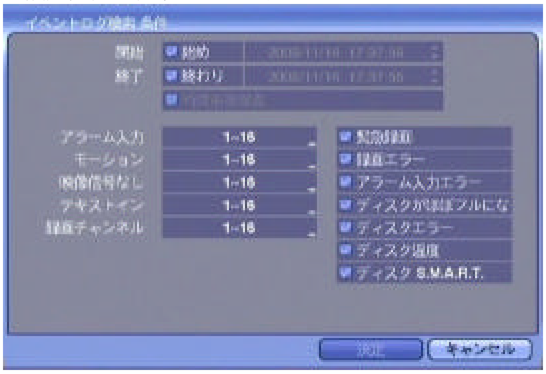
「イベントログ検索…」を選択すると、イベントログ検索ウィンドウが表示されます。

3　リストを選択し、再生する。

表示されたリストから再生するリストを選択し、エンターボタンを押すと、該当する映像が一時停止状態で表示されます。

【参考】
表示される画面は、該当するカメラチャンネル数に合わせ表示されます。
1チャンネル：フル画面表示
2～4チャンネル：4分割表示
5～9チャンネル：9分割表示
10～16チャンネル：16分割表示

	【参考】 現在表示されている画面には、録画された映像がないこともあります。 その場合、分割表示ボタンを押して16分割画面に切り替えると、該当時間帯の映像が保存された画面を簡単に探すことができます。
4	イベントログの検索条件（絞込み）を指定する。 イベントログ検索画面で左下の「条件…」を押すと、「イベントログ検索条件」の設定画面が表示されます。

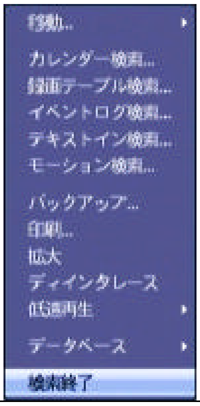


開始	検索時間範囲の開始点を設定します。 「始め」を選択すると、保存されたデータのうち最初の時刻で設定されます。 または、任意で年月日、時間を入力して指定します。
終了	検索時間範囲の終了点を設定します。 「終わり」を選択すると、保存されてデータのうち最後の時刻で設定されます。 または、任意で年月日、時間を入力して指定します。
時間重複検査	「開始」、「終了」を任意で年月日、時間指定した場合、時間重複検査を選択/解除できます。 録画運用中に時間設定（変更）を行い、録画データが重複する場合があります。 時間重複検索を選択されていない場合、いずれのデータを再生するか確認メッセージが表示されます。 時間重複検査が選択されている場合、すべてのイベントリストが表示されます。 （参照：124ページ「時間重複」）
アラーム入力	アラーム入力イベントを検索するアラーム入力チャンネルを選択します。
モーション	モーション感知を検索するカメラチャンネルを選択します。
映像信号なし	映像信号なしのイベントを検索するカメラチャンネルを選択します。
テキストイン	テキストインのイベントを検索するチャンネルを選択します。
録画チャンネル	イベントを検索する録画チャンネルを選択します。ここで設定された録画チャンネルのうち、一つでも連動録画が発生したイベントのみ検索します。どのカメラも選択しなければ、連動録画カメラが一つもないイベントのみ検索します。

イベント条件追加	「緊急録画」、「録画エラー」、「アラーム入力エラー」、「ディスクがほぼフルになります」、「ディスクエラー」、「ディスク温度」、「ディスクS.M.A.R.T.」などのシステムイベントを検索する際に含めるかどうかを設定できます。

「決定」を押すと、イベントログ検索リストが再度作成され表示されます。
3の手順で、再生するリストを選択し、再生します。

5　再生を終了する。



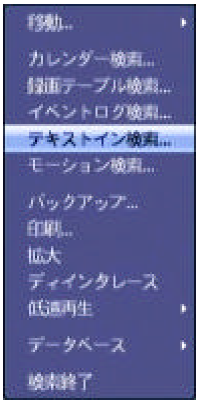
前面パネルの再生モードボタンを押すと、再生を終了します。
または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると、再生を終了します。

■テキストイン検索

1　検索メニューを表示させる。

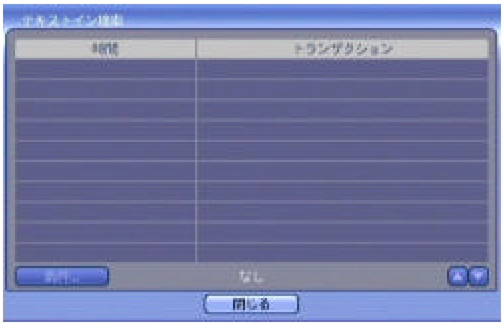
再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

2　テキストイン検索を選択する。



「テキストイン検索…」を選択すると、テキストイン検索ウィンドウが表示されます。

3　リストを選択し、再生する。



イベントリストで特定イベントを選択すると、選択された日時に該当する映像が画面に一時停止状態で表示されます。

【参考】
現在表示されている画面には、録画された映像がないこともあります。
その場合、分割表示ボタンを押して16分割画面に切り替えると、該当時間帯の映像が保存された画面を簡単に探すことができます。

【参考】
1倍速再生時には、画面にテキストイン情報が重複して表示されます。
別の速度ではテキストイン情報は表示されません。

4　テキストインの検索条件（絞込み）を指定する。

左下の「条件…」を選択すると、テキストイン検索で検索する条件を設定することができます。

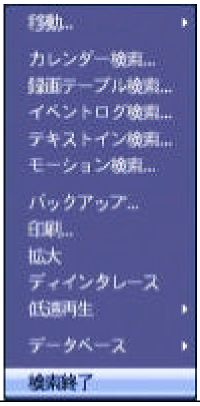
「+」を選択して検索変数設定を追加することができます。
右側の✖を選択して当該項目および全体項目を削除することができます。
（参照：116ページ「テキストイン情報のクエリー例」）

開始	検索時間範囲の開始点を設定します。 「始め」を選択すると、保存されたデータのうち最初の時刻で設定されます。 または、任意で年月日、時間を入力して指定します。
終了	検索時間範囲の終了点を設定します。 「終わり」を選択すると、保存されてデータのうち最後の時刻で設定されます。 または、任意で年月日、時間を入力して指定します。
チャンネル	検索するテキストイン「チャンネル」を選択することができます。
汎用テキスト	テキストイン装置を選択して汎用テキストのようなテキストイン装置のタイプを選択することができます。 現在の設定画面の内容は、汎用テキストに関した検索設定内容です。
大小文字区分	検索する際に単語の大小文字を区別する/しないを設定できます。
取込	保存された検索条件設定値を読み込むことができます。
保存	現在の検索条件設定値を保存することができます。 バーチャルキーボードを利用して検索条件名を入力します。

「決定」を押すと、テキストイン検索リストが再度作成され表示されます。
３の手順で、再生するリストを選択し、再生します。

5　**再生を終了する。**

前面パネルの再生モードボタンを押すと、再生を終了します。



または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると、再生を終了します。

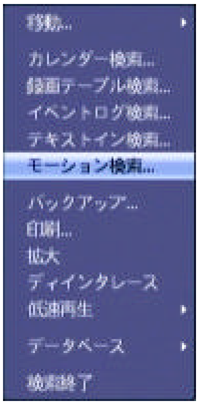
■モーション検索

フル画面の再生時のみ、検索メニュー上に「モーション検索」メニューがアクティブになり、選択できます。
分割画面モード（4、9、16分割）では、非アクティブになり選択できません。

1　検索メニューを表示させる。

再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

2　モーション検索を選択する。



「モーション検索…」を選択すると、モーション検索ウィンドウが表示されます。

3　リストを選択し、再生する。

モーション検索設定の右側のリストに表示される検索結果のうちの一つを選択すると、左側に該当時間に録画された映像が表示されます。
該当映像を再生する場合、「閉じる」を選択して下さい。

表示されたリストから再生するリストを選択し、エンターボタンを押すと、該当する映像が一時停止状態で表示されます。

【参考】
現在表示されている画面には、録画された映像がないこともあります。
その場合、分割表示ボタンを押して16分割画面に切り替えると、該当時間帯の映像が保存された画面を簡単に探すことができます。

別のカメラのフル画面モードに切替えて「モーション検索」を選択すると、以前のモーション検索結果が消えるという警告が表示されます。
その場合、「結果削除」を選択すると以前の検索結果が消え、「キャンセル」を選択すると以前の検索結果がリストに表示されます。

4 モーションの検索条件（絞込み）を指定する。

「条件…」を選択すると、モーション検索で検索する条件を設定することができます。

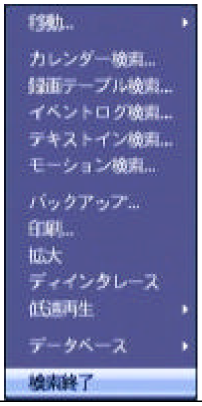
<table>
<tr><td>開始</td><td colspan="2">検索時間範囲の開始点を設定します。
「始め」を選択すると、保存されたデータのうち最初の時刻で設定されます。
または、任意で年月日、時間を入力して指定します。</td></tr>
<tr><td>終了</td><td colspan="2">検索時間範囲の終了点を設定します。
「終わり」を選択すると、保存されてデータのうち最後の時刻で設定されます。
または、任意で年月日、時間を入力して指定します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">タイプ</td><td colspan="2">「モーション検索」や「オブジェクト検索」のどちらかに設定できます。</td></tr>
<tr><td>モーション検索</td><td>直前の映像と比較して、選択されたエリアでの変化を探します。
したがって、変化がとても遅い場合は感知しません。</td></tr>
<tr><td>オブジェクト検索</td><td>「開始」に設定された日時の映像と比較して、選択されたエリアでの変化を探します。
したがって、とても遅い変化であっても「開始」に設定された日時と比較し</td></tr>
</table>

		てある程度以上変化があれば、感知されます。
エリア	モーション感知設定でエリアを設定する方法と同じです。 （参照：59ページ「モーション感知設定」） 【参考】 「オブジェクト検索」のエリアを設定する場合、対象物の端部分をエリアに含めるとうまく検索されない場合があります。 正確な検索のためにできるだけ対象物の端を含めない内側を検知エリアに設定してください。	
感度	1（低感度）～5（高感度）の間で設定します。	
ミニマムブロック	「タイプ」で「モーション検索」を選択した時のみ使用できます。	

「決定」を押すと、イベントログ検索リストが再度作成され表示されます。
3の手順で、再生するリストを選択し、再生します。

5　再生を終了する。

前面パネルの再生モードボタンを押すと、再生を終了します。



または、マウスの右クリックで、再生/検索メニューを表示させ「検索終了」をクリックすると、再生を終了します。

3-6.バックアップ

【参考】
バックアップのファイルサイズは2GB以下に制限されます。
2GBを超える場合には2GB単位に分割され合計で32GBまで取り出せます。
ただし、ワンタッチモードでは2GBまでです。

1　検索メニューを表示させる。

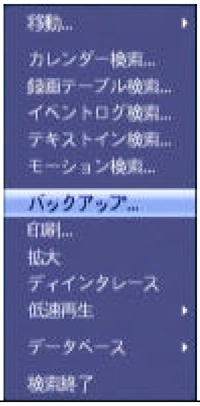
または

長押し（2秒以上）

再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、マウスを右クリックすると、検索メニューが表示されます。

<ワンタッチモード>
ライブ映像モード、または再生モードでフリーズボタンを長押し（2秒以上）するとワンタッチモードでバックアップ設定ウィンドウを表示することができます。
ワンタッチモードでは、常に最新録画データを終了時刻に設定し、保存ドライブの空き容量によって開始時刻が自動的に計算されます。

2　バックアップを選択する。



「バックアップ…」を選択すると、バックアップ設定ウィンドウが表示されます。

再生モードでフリーズボタンを押し、任意の二つの時点を設定してその間の録画データをバックアップすることができます。
映像再生中、フリーズボタンを1回押すと1番目の時点が設定され画面左下にアイコンが表示されます。
もう一度、フリーズボタンを押すと2番目の時点が設定されバックアップ設定ウィンドウが表示されます。
指定した二つの時点の範囲が「開始」と「終了」時刻に設定されます。

4　バックアップ設定を行う。

データベース	「録画」に設定されていれば録画。 HDDに「アーカイブに設定されていればアーカイブHDDに保存された映像をバックアップします。
開始	バックアップ時間範囲の開始点を設定します。 「始め」を選択すると、保存されたデータのうち最初の時刻で設定されます。 または、任意で年月日、時刻を入力して指定します。
終了	バックアップ時間範囲の終了点を設定します。 「終わり」を選択すると、保存されたデータのうち最後の時刻で設定されます。 または、任意で年月日、時刻を入力して指定します。
チャンネル	どのカメラの映像を保存するかを選択します。
パスワード	登録すると、このファイルを再生する時、パスワードの入力が必要になります。 パスワードを使用するかどうかを選択し、パスワードを設定してください。
メディア選択	保存するメディアを選択します。
ファイル選択	保存するファイル名を設定します。 最高63字まで入力できます。 【参考】 ファイル名には、\、/、:、*、?、”、<、)、|などの文字は使用できません。
テキストインのデータ含み	録画映像にテキストイン情報がある場合、テキストイン情報を映像と共に保存します。
書き込まれたデータ検査	バックアップが終わってからCD-RW、およびDVD-RWにバックアップデータが正常に書き込まれたか検証します。 【参考】 CD-RWおよびDVD-RWに保存する場合、録画速度に影響を与えることもあります。

5　バックアップを開始する。

「スタート」を押して、バックアップを開始します。
指定した保存範囲のバックアップするデータ容量を計算して表示します。

＜ワンタッチバックアップモード＞では保存媒体の容量に合わせて保存範囲が自動的に設定されます。
選択した保存媒体に空き容量が足りない場合には空き容量に合わせてバックアップすることができます。

時間範囲と容量を確認して「継続」を選択するとバックアップが始まります。
バックアップ中に「キャンセル」を押すとバックアップをキャンセルでき、「閉じる」を押して画面を隠すことができます。
「閉じる」を選択してもバックアップは継続され、作業が完了すると確認画面が表示されます。

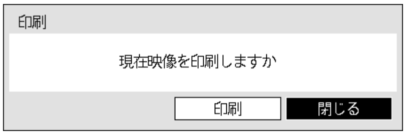
バックアップで作ったファイルをWindows上で実行して、保存された動画を再生することができます。

【参考】
USB保存媒体の場合、外部でFAT32に初期化された（32GB以下にパーティション）されたものを使用してください。
市販のFAT32で32GB以上のパーティションのドライブは使用できません。
（参照：116ページ「USBハードディスクのインストール」）

【参考】
DVD-RWドライブの場合、4.7GB容量のメディアのみ使用できます。
既に使用されているメディアに保存する場合には、使用容量が4GB未満なら空いている領域に4.7GBまでバックアップできますが、使用容量が4GB以上なら空いている領域があってもバックアップできません。

【使用上のご注意】
USB保存媒体へのバックアップの途中でUSBケーブルを抜いたり、USB装置の電源を切らないでください。
もし、バックアップの途中でケーブルが抜けたり装置の電源が切れた場合、デジタルレコーダーシステムが誤動作や外付USB装置のファイルシステムが損傷して、再度バックアップを試みる場合にバックアップができないというエラーメッセージが表示されることがあります。
このエラーメッセージを取り除くには、デジタルレコーダーを終了させて再起動する必要があります。
もし、USBハードディスクのファイルシステムが損傷した場合、デジタルレコーダーを再起動してもバックアップを試みる際にエラーメッセージが出続けるようになります。
そのような場合はUSB－ハードディスクをもう一度初期化するか、市販の復旧プログラムを利用して外付ドライブのファイルシステムの損傷した部分を復旧してください。

3-7 印刷

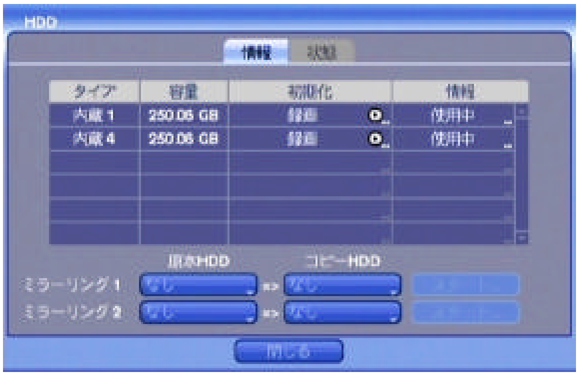


現在の映像を印刷するために、再生モードで再生/一時停止ボタンを押して再生を一時停止します。検索メニューで“印刷”を選択すると、確認画面が表示され、もう一度“印刷”を選択するとUSBコネクターに接続されたプリンターで印刷されます。

【参考】
PostScript?プリンターでのみ映像を印刷することができます。LPTコネクター（パラレルポート用コネクター）のみサポートするプリンターの場合、
LPTをUSBに変換するケーブルがありますので、別途購入して使用してください。

3-8 ディスクミラーリング

本DVRは録画データを2台のディスクに同時記録するディスクミラーリング機能を搭載します。
システム構成—HDDからディスクミラーリングを設定することができます。



各ミラーリング項目の“原本”と“コピー”を選択することにより、ハードディスクの間の原本とコピーのディスクを指定し、2台のディスクをミラーリングするように設定します。ミラーリングは2つまで設定できます。

参考:原本ディスクはすでに“録画”用としてフォーマットされたディスクのみ使用することができます。

参考:原本ディスクとコピーディスクが同一メーカの同一モデル及び容量であればミラーリングが正常動作します。

参考:“アーカイブ”用として使用中であるハードディスクにはミラーリング設定をすることができません。

原本及び、コピーディスクを選択してから“開始”を選択するとミラーリングを確認するメッセージが表われ、ミラーリングを開始します。新しくミラーリングを始めるとコピーディスクのすべてのデータが消され、原本のデータをコピーするようになりますが、この過程を同期化といいます。原本ハードディスクがフォーマットされデータのない状態であれば、同期化過程はありません。同期化を完了したら、原本ディスクに記録するすべての内容が、同時にコピーディスクにも記録されるミラーリングが始まります。同期化はハードディスクのデータの10GB当たり、約40分かかります。

参考:映像の検索をする間はミラーリングの同期化を一時中止します。

参考:ミラーリングが作動中であれば、バックアップを自動的に中断します。

注意:ミラーリングコピーディスクと設定するとディスクのすべてのデータが消されます。間違いでディスクの設定をしないようにご注意ください。ミラーリングのコピー
ディスクに指定するとコピーディスクの全ての内容が
消されます。ディスク指定に間違いが内容にご注意ください。

ミラーリングの作動中に“中止”を選択するとミラーリングの中止を確認するメッセージが表われます。“中止”を選択するとミラーリングが中止されます。

参考:ミラーリングが中止されるとコピーディスクは使用しない設定になります。但し、同期化の完了済み状態で中止された場合は、コピーディスクを録画用あるいはアーカイブ用に使用することはできませんが、検索用として使用することはできます。ミラーリングが中止されたコピーディスクを録画あるいはアーカイブ用として使用するためには新たにフォーマット作業を行ってください。

注意:一度中止されたミラーリングは再開することができません。再び、ミラーリングを開始するためにはミラーリングの設定に従い、最初から開始しなければなりません。

4．参考資料

4-1USB ハードディスクのインストール

USB ハードディスクをデジタルレコーダーに接続する為には、事前に Windows PC を用いて初期化する必要があります。本章ではこの初期化の方法について説明します。

①Windows で USB ハードディスクを初期化する

【参考】
以下は Windows XP を用いた USB ハードディスクの初期化の手順を示しています。
Windows Vista 、Window 2000 では、それぞれの手順に従ってください。

1. USB ケーブルを使用して USB ハードディスクを PC に接続します。
2. PC を起動します。
3. USB デバイスのアイコンがタスクバーに表示されます。
4. 「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を開き、「記憶域」の「ディスクの管理」をクリックします。接続した USB ハードディスクのファイルシステムが FAT32 で、32GB 以下であることを確認します。そうでない場合、USB ハードディスクのパーティションを作り直します。

※ 以下の操作で、USB ハードディスクのデータは全て削除されます。必要なデータはあらかじめバックアップしてください。

5. USB ハードディスクのパーティションを作成するには、USB ハードディスクの該当領域でマウス右クリックして「パーティションの削除」を実行し、削除完了後にマウス右クリックで「新しいパーティション」を選びます。
6. 「新しいパーティション ウィザード」の手順に従って、パーティションを作ります。「プライマリ パーティション」を選び、「パーティション サイズ」を 32,768 MB 以下に設定し、「ファイルシステム」は「FAT32」を選択します。「新しいパーティション ウィザードの完了」の画面まで進み、「完了」ボタンを押すと、パーティションの作成とフォーマットが始まります。
   ※　Windows Vista では、「新しいシンプル ボリューム ウィザード」を使用します。

【参考】
Windowsの制限があるため、パーティションのサイズは32GB（ 32,768 MB）より小さく設定してください。

7. フォーマットが完了すると、USB ハードディスクの該当領域が表示されます。
   タスクバーの「ハード ウエアの安全な取り外し」をクリックし、USB ハードディスクを取り外します。
8. デジタルレコーダーに USB ハードディスクを接続します。

4-2．テキストイン情報のクエリー例

クエリー例1

```
123456
1234567890123456789012345678901234567890123456789012345678
90


ItemUnitpriceQtyamount
==================================================
Coke¦$2.20¦1（s）¦$2.20
Fanta¦$2.20¦1（s）¦$2.20
Hotdog¦$3.50¦3（s）¦$10.50
Pepsi¦$1.95¦1（s）¦$1.95
==================================================
total:$16.85
Thankyou˜ ˜
```

このテキストイン情報では、比較値が左端から17文字目（Unitprice）、28文字目（Qty）、および40文字目（amount）に位置しています（スペース文字を含みます。$記号は自動的に無視されます）。この場合、コラムボックスの各行に17、28、40を入力できます。

例えば、Qty（数量）が1より大きいCokeと、amount（合計金額）が8ドルを超えるHotdogを検索する場合は、検索条件を次のように設定できます。

クエリー例2

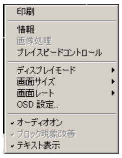
```
123456
1234567890123456789012345678901234567890123456789012345678
90


ItemUnitpriceQtyamount
==================================================
Coke¦$2.20¦1（s）
```

$2.20
Fanta¦$2.20¦1（s）
$2.20
Hotdog¦$3.50¦3（s）
$10.50
Pepsi¦$1.95¦1（s）
$1.95
==
total:$16.85
Thankyou˜ ˜

このテキストイン情報では、比較値が左端から17文字目（Unitprice）、28文字目（Qty）、および40文字目（amount）に位置しています（スペース文字を含みます。$記号は自動的に無視されます）が、amountカテゴリーの行がItemとは異なっています。この場合、コラムボックスの各行に17、28、40を、列ボックスには次行を示す1を入力できます。
例えば、Qty（数量）が1より大きいCokeと、amount（合計金額）が8ドルを超えるHotdogを検索する場合は、検索条件を次のように設定できます。

4-3．クリッププレイヤー

バックアップで作ったファイルをWindows上ですぐ実行させ、保存された動画を再生することができます。

/最初へ/最後へ	映像の一番初め/一番後に移動します。
/巻戻し/早送り	映像を高速で巻戻し/早送りします。
再生	映像を1倍速で再生します。
/コマ送り/コマ戻し	映像を1コマずつコマ戻し/コマ送りします。
画面モード変更 拡大 全画面表示	ディスプレーモードが4/9/16分割画面に順に切り替わります。 拡大を選択すると、選択した映像を2倍まで拡大できます。 全画面表示を選択すると映像と操作ボタンをフル画面表示します。解除にはescキーを押します。
/前画面グループ/次画面グループ	4、9分割画面または単一映像モードで押すと、それぞれ前/次の分割ページに移動します。
プロパティ  	印刷を選択すると、画面をプリンターで印刷することができます。 映像情報を選択すると、現在の映像のチャンネル番号、カメラタイトル、 録画時間、録画モード、ファイルサイズ、解像度などの情報を確認できます。 単一画面モードで一時停止状態であれば、映像調整を選択して明るさの調節や、ソフトにまたはシャープなイメージフィルターを適用できます。
保存	保存を選択して現在の画面をJpegもしくはBtpファイルとして保存できます。

4-4．ウェブガード

ウェブガード（WebGuard）はインターネット上で別度のプログラムがなくても遠隔地の映像を監視及び検索できるもので、一般ブラウザ（インターネットエクスプローラ）を用いて簡単に接続できます。

ウェブガードの行うためには下記の通りPCのシステムの仕様が必要です。

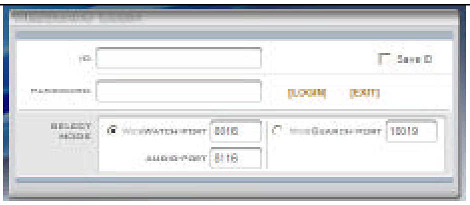
OS	MicrosoftWindows2000c,MicrosoftWindowsXPc,MicrosoftWindowsVistac
CPU	IntelPentiumIIIc（Celeronc）600MHz以上
RAM	128MB以上
VGA	8MB以上（1024x768、24bpp以上）
InternetEXPlorerc:	バージョン6.0以上

インターネットエクスプローラを実行してからアドレス入力欄へ下の情報を入力してください。

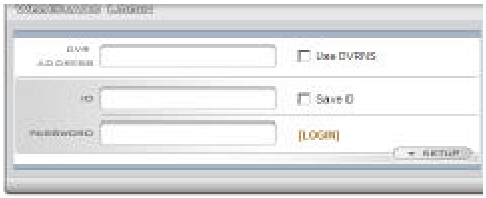
“http://IPアドレス:ポート番号”（DVRシステムIPアドレス及びネットワーク?ウェブガード設定から設定したウェブガード接続ポート番号（デフォルト値:12088）入力）
あるいは、“http://DVRNSサーバーアドレス/DVRネーム”（DVRNSサーバーアドレス及びDVRNSサーバーへ登録されたDVRネーム入力）
あるいは、“http://www.dvronline.net”（ログイン時DVRIPアドレスあるいはDVRNSサーバーへ登録したDVRネームを入力要求）

参考:接続しようとするDVRのIPアドレス及びウェブガードのポート番号はネットワーク管理者へお問い合わせください。

参考:ウェブガードはマイクロソフトインターネットエクスフローラ（MicrosoftInternetEXPlorerc）のみ対応しており、ネットスケープナビゲータ（NetscapeNavigatorc）またその他のブラウザーには対応しておりません。



ウェブガードのログイン画面が出ると“WEB WATCH”（ウェブ監視）または“WEB SEARCH”（ウェブ検索）を選択してから各プログラムのポート番号を入力します。ID及びパスワードを入力して[LOGIN]ボタンをクリックすると選択したモードに接続されます。“SaveID”を選択すると入力したIDを保存します。



“http://www.dvronline.net”を入力して接続する場合は、“DVRADDRESS”項目へDVRのIPアドレスを入力します。ログインメニューから“UseDVRNS”オプションを選択したらIPアドレスの代わりにDVRNSサーバーへ登録されたDVR名を入力することが可能であり、SETUP設定からDVRNSサーバーのアドレス及びポート番号の入力が求められます。

参考:WEBWATCH及びWEBSEARCH及びAUDIOプログラムの各ポート番号はDVRのネットワーク設定より選択した遠隔ソフトのポート番号と同一する必要があります。

参考:新しいバージョンのウェブガードを開く場合、インターネットエクスプローラで以前のバージョンの情報を読込むことがあります。その場合には、コントロールパネル→インターネットオプション→全般に移動してインターネット一時ファイルでファイルの削除をしてから、ウェブガードを行ってください。

参考:インターネットエクスフローラ7.0よりウェブガードを実行する場合、アドレスバーやステータスバーを表示すると画面の下段部が見えなくなる場合があります。この現象を解決するためにはインターネットの設定を変更し、アドレスバーやステータスバーを表示しないでブラウザーを開くことをお勧めします。（“ ツール ”→“ インターネットオプション ”→“ セキュリティ ”→“ レベルのカスタマイズ ”→“ Webサイトがアドレスバーやステータスバーのないウィンドウを開くのを許可する ”のオプションを“ 有効にする ”に設定）。

参考:マイクロソフトウィンドウズ・ヴィスタ（MicrosoftWindowsVistac）運営体制よりウェブガードソフトを起動する場合、インターネットエキスフローラ実行するためにはエキスフローラのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし表示されるメニューより“ 管理者として実行 ”をお選びください。“ 管理者として実行 ”を選択しない場合、ウェブガードの一部の機能が制限される恐れがあります。

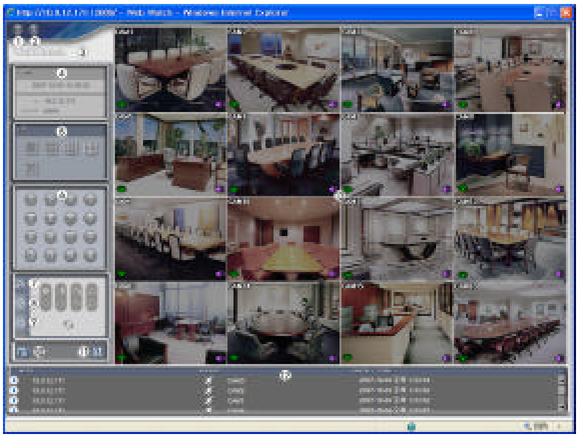
参考:マイクロソフトウィンドウズ・ヴィスタ（MicrosoftWindowsVsista）運営体制では映像転送速度の低下によりウェブガードのスクリーンの画面が表示されなかったり、更新しなかったりする恐れがあります。本症状の場合は、御使用のPCのオートーチューニング機能の解除をお勧めします。

管理者権限でコマンドプロンプト実行（“ スタート ”メニュー→“ すべてのプログラム ”→“ コマンドプロンプト ”→マウスの右ボタンを利用し、“ 管理者として実行 ”選択）。“ netshinttcpsetglobalautotuninglevel=disable ”を入力してから縁たーENTERキーを押してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

オートーチューニング機能を再度復旧するためには管理者権限でコマンドプロンプトを実行してから“ netshinttcpsetglobalautotuninglevel=normal ”を入力してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

①ウェブ監視モード

ウェブ監視は遠隔地の映像をリアルタイムで監視できる遠隔地ウェブ監視のプログラムです。



①　ウェブガードのプログラムが終了されます。

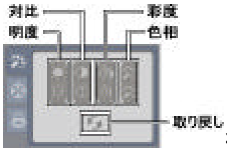
②を押すとウェブ検索モードに転換されます。

③
マウスのポインタをWebWatchのロゴ部分に置くとウェブガードのバージョンを確認することができます。

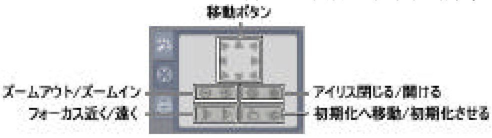
④ウェブガードログイン情報を表示します。

⑤ディスプレーモードを選択することができます。ディスプレーモードを変更する場合、
今のスクリーンから選択したカメラが変更されるレイアウトの最初の画面に位置します。

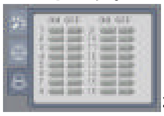
監視したいカメラを選択します。



を押すと映像の画質を調節することができます。



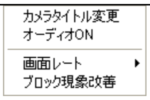
を押すと遠隔地のPTZカメラを制御することができます。



を押すと遠隔地のアラーム出力を制御することができます。

イベント状態窓は遠隔地で検知されたイベントリストを表示します。

画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューを表示します。



カメラタイトル変更:カメラタイトルを変更することができます。
オーディオON:遠隔地とのオーディオの送受信機能を提供します。項目を選択するとオーディオ ボタンが表示されます。 ボタンを選択するとマイクを利用して遠隔地に音声を送ることが可能であり、 ボタンを選択するとスピーカから遠隔地のオーディオを再生することが可能であります。 ボタンと ボタンをすべて選択すると遠隔地と両方向オーディオの送受信が可能になります。 × ボタンを選択するとオーディオ送受信が非活性化します。
画面レート:スクリーン上に見える映像の大きさと縦横比を変更することができます。
ブロック現象改善:拡大映像で見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。

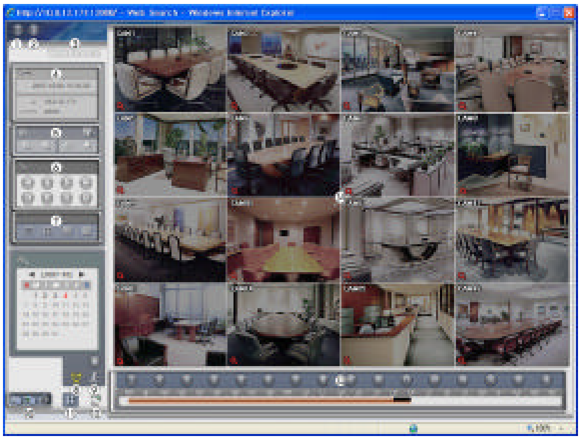
参考:ウェブ監視モードより変更されたカメラ名は遠隔地システムには影響しません。また、カメラ名を入力しない場合、遠隔地より設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

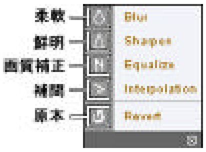
参考:接続したオーディオ制御機能をサポートする場合、当該カメラスクリーンに アイコンが表われます。

②ウェブ検索モード

ウェプサーチは遠隔地の録画映像を検索することができる遠隔地ウェブ検索プログラムです。

参考:ウェブ検索スクリーンからの遠隔地接続は30分以上の操作がない場合、自動解除されます。





① を押すとウェブガードのプログラムが終了されます。

② を押すとウェブ監視モードに切り替えます。

マウスのポインタをWebSearchのロゴ部分に置けばウェブガードのバージョンを確認することができます。

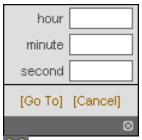
遠隔地DVRの時間情報及びウェブガードログイン情報を表示します。

を押して映像に様々なイメージフィルターを適用します。を押して映像を縮小及び拡大します。を押して映像の明るさを調節します。

参考:映像調整は一時停止状態でのみ適用されます。

再生ボタンを押して映像を巻き戻し、一時停止、正倍速、早送、映像の最初に移動、コマ送り、映像の最後に移動します。

ディスプレーモードを選択することができます。



を押してタイムラプス検索モードを用い、録画映像を検索及び再生します。タイムラプス検索モードでの検索は日付単位に構成されカレンダーで検索しようとする日付を選択することができます。タイムテーブルはカレンダーで選択した日付の録画映像の時間情報を表示します。検索したい時間を選択すると該当の時間帯の映像を画面に表示します。該当の時間帯に一つ以上の映像がある場合には検索するセグメントを選択することができます。を押して検索する日付及び時間を設定して特定時間帯の映像にすぐ移動することができます。

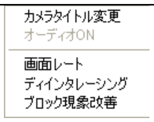
を押してイベント検索モード用いて使用者が指定した条件を満足するイベントを検索することができます。

あるいはを押して録画映像を静止画像またはクリッププレーヤーに保存します。を押して現在の映像をパソコンに接続されているプリンタで印刷します。

を押すとディスプレイモード及びOSD表示を設定することができます。ディスプレイモードを選択して映像を出力するスピードを調整することが可能であり、OSD表示リストより画面に表示するOSD情報を選択することができます。

選択したカメラの録画情報を時間単位で表示します。

画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューを表示します。

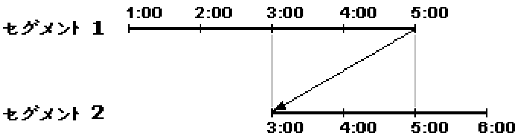


カメラタイトル変更:カメラタイトルを変更することができます。
画面レート:スクリーン上に見える映像の出力レートを変更することができます。
ディインタレーシング:インタレーシングモードにてインコーディングしてある映像の場合、動きのある部分へ発生する横線やノイズを無くし、映像の出力品質の向上することができます。
ブロック現象改善:拡大映像から見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。

参考:ウェブ検索モードより変更されたカメラ名は遠隔地システムには影響しません。また、カメラ名を入力しない場合、遠隔地より設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

4-5. 時間重複

使用者が時刻を戻して録画を行う場合、同一の時間帯に一つ以上の録画映像が存在する可能性があります。この場合、重なった時間の録画映像はセグメントを区分して検索する必要があります。例えば、[1:00]より[5:00]までの録画映像が存在する場合、使用者がシステム時間を[5:00]より[3:00]に変更してから6時まで録画を行うと[3:00]より[5:00]までの録画映像が二つ存在することになります。この場合に[3:00]より[5:00]までの時間帯には二つのセグメントは発生します。



重なった時間の録画映像を検索する時には特定時間または時間範囲を選択することができます。重なった空間の[3:00]より[5:00]の間の区間で“ 日時指定検索 ”などの検索メニューを用いてある特定の検索時間を指定する場合、“ [4:00] ”の録画映像を検索しようとすると重なった二つのセグメントの中にどのセグメントの[4:00]なのかを選択する必要があります。

参考:“ セグメント ”の字の前の数字が小さいものが後に録画したデータです。

時間が重なった[3:00]~[5:00]区間で、“ イベントログ検索 ”、“ テキストイン検索 ”及び“ モーション検索 ”などの検索メニューを使用して検索時間範囲を指定する場合、“ [4:00]~[5:00] ”の間の録画映像を検索したい場合には、重なった二つの検索開始と終了時間の中に一つを選択する必要があります。

選択できる検索範囲は下記の通りです。
セグメント1の[4:00]〜セグメント1の[5:00]
セグメント1の[4:00]〜セグメント2の[5:00]
セグメント2の[4:00]〜セグメント2の[5:00]

５．トラブルシューティング（故障かな？と思う前に）

症状	確認事項	参照ページ
本体が起動しない。	電源コードの接続状態を確認してください。 コンセントの電源を確認してください。	-
リアルタイム映像が表示されない。	カメラ映像ケーブルとの接続状態を確認してください。	-
	モニター映像ケーブルとの接続状態を確認してください。	-
	カメラの電源を確認してください。	-
	カメラレンズの設定状態を確認してください。	-
	「隠し」設定になっていませんか？ カメラが「隠し」設定になっており、「隠しカメラビュー」権限のないユーザーでログインしている場合、カメラ映像は表示されません。	39 ページ
	再生状態になっている場合は、再生モードボタンを押すとリアルタイム映像に戻ります。	-
リアルタイム映像が明るすぎる。	ループスルーコネクター接続されているケーブルに適切な終端抵抗が接続されていますか？	5 ページ
アイコンが画面に表示されているが、デジタルレコーダーが録画していない。	プリイベントが設定されており、イベントが発生していない場合は、（黄色）とアイコンが表示されます。 イベントが発生している場合は、（赤色）とが表示されます。	54 ページ
デジタルレコーダーの録画が停止した。	「上書」モードを確認してください。 「上書」モードが設定されていない場合、ハードディスクがいっぱいになると、録画が停止します。	49 ページ
ビープ（ブザー）音が止まらない	カメラ映像が接続されていないカメラ入力チャンネルがありませんか？ 使用していないカメラ入力チャンネルがある場合、カメラ設定の番号にて、チェックをはずす（解除する）必要があります。	38 ページ
	カメラの映像が正しく入力されていますか？	5 ページ
	ハードディスクなどシステムに異常がありませんか？	26 ページ
	アラームが入力されている状態ではありませんか？または、アラーム入力が正しく設定されていますか？	57 ページ
アラームボタンを押しても、ビープ（ブザー）音が止まらない。	ログインしていないばあいは、アラームキャンセルが効きません。 アラームボタンを押すとログイン画面が表示されます。ログインするとビープ（ブザー）音が止まります。	15 ページ

症状	確認事項	参照ページ
CD / DVD に書き込む際に「マウントエラー」が表示されて、書き込みできない。	Direct CD Formatterd 等フォーマット済みの CD は使用できません。データ用の CD もしくは、DVD を使用することをお勧めします。ディスクによっては、コピーが正常に行われない場合がありますが、これはディスクとの本機搭載のドライブとの相性によるもので、故障または不良ではありません。	-
S.M.A.R.T.エラーが発生した場合の対処方法。	近い将来ハードディスクが故障することが予測される状態であり、その時点ではハードディスクが正常動作していると期待されます。正常動作している間に、必要なデータをバックアップし、ハードディスクを交換することを推奨いたします。 エアコン等により急激な温湿度変化が発生した場合や適合環境温度から逸脱していた場合に、環境要因により S.M.A.R.T.エラーが発生する場合があります。環境が安定した後、再起動してみてください。 ハードディスクの交換については、販売店にご相談ください。	25 ページ 75 ページ
クリッププレーヤーを起動するとランタイムエラーになる。	PC 画面のプロパティで、「画面の色」を「24 ビット」以上に設定してください。	-
本機が自動的に再起動することがある。	本機は軽微な障害が発生した場合、録画停止などの致命的エラーに至ることを未然に防ぐために再起動を行うウォッチドッグタイマ機能が搭載されています。運用中に自動的に再起動されることがありますが、故障ではありません。また、再起動中の数分間は録画されませんので、あらかじめご了承ください。	-
CD / DVD にバックアップ時「パーティション」がありません」というメッセージが表示され、バックアップできない。	内蔵ハードディスクに、バッファ領域が設定さている必要があります。 必要に応じて、ハードディスクを初期化して、バッファ領域（「区画」）を設定してください。	25 ページ

6．システムログとエラーコードタイプ

6-1 システムログ

システム開始	緊急録画開始
システム終了	緊急録画終了
システム再開始	全てのデータ削除
アップグレード	ディスク削除
アップグレードエラー	ディスク初期化
電源エラー	ディスクフル
時間変更	自動削除
標準時間帯変更	検索開始
タイムサーバー成功	検索終了
タイムサーバー失敗	バックアップ開始
ディスクエラー	バックアップ終了
ログイン	バックアップキャンセル
ログアウト	バックアップ失敗
設定開始	バックアップユーザー:
設定終了	バックアップスタート:
遠隔設定変更	バックアップ終了:
遠隔設定エラー	バックアップ映像再生時間:
設定読込	バックアップカメラ:
設定読込失敗	コールバック失敗
設定移出	印刷開始
設定移出失敗	印刷終了
設定移出取消	印刷キャンセル
スケジュール作動	アーカイブオン
スケジュール終了	アーカイブOFF

6.-2 エラーコード

アップグレードエラーコード		バックアップエラーコード	
番号	エラータイプ	番号	エラータイプ
0	原因不明のエラー	0	原因不明のエラー
1	ファイルバージョンに合いません	1	装置エラー
2	OSバージョンに合いません	2	装置接続失敗
3	SWバージョンに合いません	3	CDメディアがありません

4	カーネルバージョンに合いません	4	間違ったメディア
100	保存装置マウント失敗	5	同じ名前のファイルがあります
101	ファイルが見つかりません	6	残容量が不足
102	ファイル圧縮解凍失敗	7	一時ファイル作成失敗
103	リロ（LILO）実行失敗	8	ディスクを開くのに失敗
104	リブート失敗	9	ディスク初期化失敗
105	正しくないファイル	10	データベース変更
106	光学ドライブのファームウェアのアップデート失敗	11	保存失敗
300	遠隔接続失敗	12	ディスクエラー発生
301	遠隔ネットワークエラー	13	クリッププレーヤー実行ファイルがありません
302	遠隔アップグレード権限がありません	14	クリッププレーヤー実行ファイルを開くのに失敗
303	遠隔アップグレードファイルの保存失敗	15	クリッププレーヤー実行ファイル保存失敗
304	ユーザーが遠隔アップグレードをキャンセル	16	イメージ作成失敗
400	USB保存装置でマウント失敗	17	書込み失敗
401	USB保存装置でファイル読取り失敗	18	書込み時間超過
402	USB保存装置でファイルコピー失敗	19	装置接続失敗
403	USB保存装置でファイルコピー失敗	20	装置使用中
404	USB保存装置が接続していない	21	サポートしないファイルシステム
405	USB保存装置使用中	22	データ検証失敗
500	バックアップ中のためアップグレード失敗		

７．記録時間表

- この記録時間表は、カメラ１台あたりの目安で、記録間隔をすべて同じインターバル、画質に設定した場合の値です。
- この記録時間表は、解像度を「標準」に設定した場合の値です。「高解像度」に設定した場合は約半分になります。
- この記録時間表は、機能動作上の見積時間であり、製品保証期間を超えての使用部品の動作信頼性を保証するものではありません。
- このデジタルレコーダーは、１画面あたりの変化の少ない部分を高圧縮し、記録容量を節約する特徴があります。したがって、撮影する映像により、記録時間が大きく変化します。あくまで参考値としてご利用ください。
- 実際に運用しながら、設定していただくことをお勧めします。

SDRS-1611　ハードディスク容量：500GB
（音声記録なし）

コマ数 / 画質	30F(コマ/秒)	20F(コマ/秒)	15F(コマ/秒)	10F(コマ/秒)	9F(コマ/秒)
最高画質	386時間	579時間	772時間	1157時間	1286時間
高画質	579時間	868時間	1157時間	1736時間	1929時間
標準画質	1157時間	1736時間	2315時間	3472時間	3858時間
低画質	2315時間	3472時間	4630時間	6944時間	7716時間

コマ数 / 画質	8F(コマ/秒)	7F(コマ/秒)	6F(コマ/秒)	5F(コマ/秒)	4F(コマ/秒)
最高画質	1447時間	1653時間	1929時間	2315時間	2894時間
高画質	2170時間	2480時間	2894時間	3472時間	4340時間
標準画質	4340時間	4960時間	5787時間	6944時間	8681時間
低画質	8681時間	9921時間	11574時間	13889時間	17361時間

コマ数 / 画質	3F(コマ/秒)	2F(コマ/秒)	1F(コマ/秒)
最高画質	3858時間	5787時間	11574時間
高画質	5787時間	8681時間	17361時間
標準画質	11574時間	17361時間	34722時間
低画質	23148時間	34722時間	69444時間

SDRS-1611　ハードディスク容量：500GB
（音声記録あり）

画質＼コマ数	30F(コマ/秒)	20F(コマ/秒)	15F(コマ/秒)	10F(コマ/秒)	9F(コマ/秒)
最高画質	379時間	565時間	747時間	1102時間	1218時間
高画質	565時間	837時間	1102時間	1615時間	1781時間
標準画質	1102時間	1615時間	2104時間	3019時間	3307時間
低画質	2104時間	3019時間	3858時間	5342時間	5787時間

画質＼コマ数	8F(コマ/秒)	7F(コマ/秒)	6F(コマ/秒)	5F(コマ/秒)	4F(コマ/秒)
最高画質	1362時間	1543時間	1781時間	2104時間	2572時間
高画質	1984時間	2240時間	2572時間	3019時間	3655時間
標準画質	3655時間	4085時間	4630時間	5342時間	6313時間
低画質	6313時間	6944時間	7716時間	8681時間	9921時間

画質＼コマ数	3F(コマ/秒)	2F(コマ/秒)	1F(コマ/秒)
最高画質	3307時間	4630時間	7716時間
高画質	4630時間	6313時間	9921時間
標準画質	7716時間	9921時間	13889時間
低画質	11574時間	13889時間	17361時間

８．PTZ カメラ対応リスト

メーカー	型式
BOSCH	AUTODOME
TOA	C-CC501
Costar	CDC2500
DynaColor	CDC2400
Chilsung	CRD-J6416
Fine	CRR-1660s
ERAESEESDS	CRX-1401
Pelco	D-protocol
Dennard	Dennard2060
Tokina	DMP-1223
Dongyang Unitech	DRX-500
Dongyang	DY-255RXC
Sensormatic	Delta Dome II/Ultra IV
HiTron	Fastrax
HiTron	Fastrax2
Phillips	G3 Basic AutoDome
LG Honeywell	GRU604A
Honeywell	HDC-655
LG Honeywell	HSD-25X
Honeywell	HSDN-251
IDIS	IRX-100
Ultrak	KD6
Ultrak	KD6 Z-Series
Kalatel	KTD-312
	LG Speed Dome
LG	LPT-A100L
New Born Hightech	NIKO
	NOVUS-C
Samsung	MRX-1000
Ademco video	Orbiter Microsphere
SysMania	ORX_1000
Linlin	PIH-717
ELMO	PTC-200C/CVAS
ELMO	PTC-250C
ELMO	PTC-400
ELMO	PTC-1000
Pacom	Pacom 2036
Dongyang	Power Controller
Sungjin	Receiver/MPU
Costar	SIC722V
Samsung Techwin	SPD 1600
Samsung	Samsung Dome
Pelco	Spectra Dome

Samsung Techwin	SRX-100B
HiTron	SpeedDome
JVC	TK-S576
	Solaris
Sensormatic	Ultra VI
Canon	VC-C4
Canon	VC-C50i
Inter-M	VRX-2201
Vicon	Vicon
HiTron	22x AF Zoom
360Vision	VisionDome
Panasonic	WJ-SX550A
Panasonic	WV-CS850/854
CBC	ZC-SD622J
Samsung	Zoom Camera

【参考】
ファームウェアのバージョンアップに伴い、対応機種が変更になる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

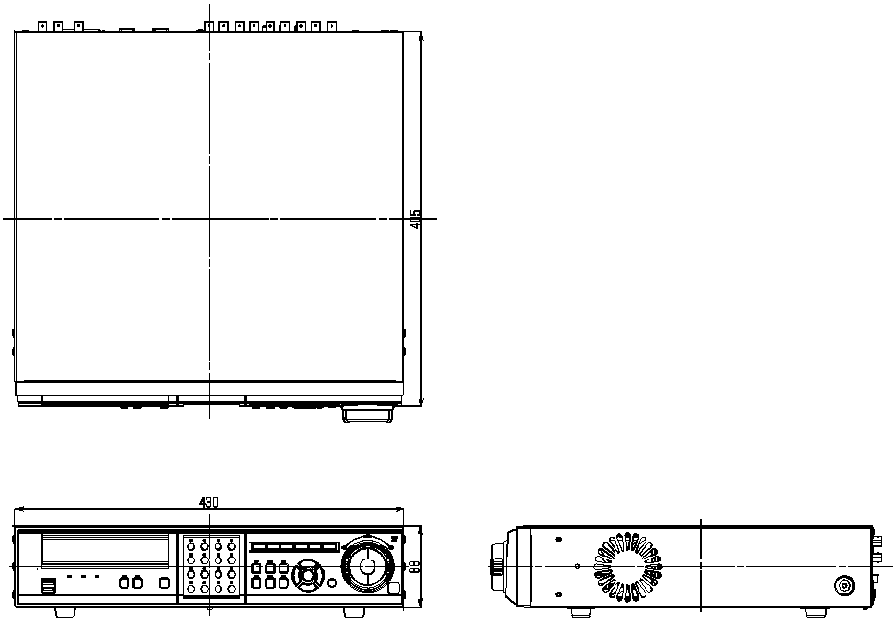
9．仕様

<table>
<tr><td>型式</td><td colspan="2">SDRX-1611</td></tr>
<tr><td colspan="3">入出力</td></tr>
<tr><td>テレビジョン方式</td><td colspan="2">NTSC 方式</td></tr>
<tr><td>圧縮方式</td><td colspan="2">MPEG-4</td></tr>
<tr><td>映像入力</td><td colspan="2">16CH、1Vp-p 75Ω（BNC）</td></tr>
<tr><td>ループスルー出力</td><td colspan="2">16CH、1Vp-p 75Ω（BNC）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">モニター出力</td><td rowspan="3">メイン</td><td>コンポジットビデオ： 1CH、1Vp-p 75Ω(BNC)</td></tr>
<tr><td>S 端子： 1ch</td></tr>
<tr><td>VGA： 1CH、アナログ RGB(ミニ D-sub15 ピン)</td></tr>
<tr><td>スポット</td><td>コンポジットビデオ： 4CH、1Vp-p 75Ω(BNC)</td></tr>
<tr><td>解像度</td><td colspan="2">720×480（ライブ映像時）</td></tr>
<tr><td>最大録画フレーム</td><td colspan="2">標準:240ips（320×240）、
高解像度:120ips（704×224）
最高 60ips（704×480）</td></tr>
<tr><td>アラーム入力</td><td colspan="2">16CH、TTL レベル NC/NO 設定可能</td></tr>
<tr><td>アラーム出力</td><td colspan="2">15CH オープンコレクタ　容量 DC12V／:30mA
1CH、リレー出力
NC接点容量：AC125V 2A、AC250V 1A、DC30V 1A
NO接点容量 ：AC125V 5A、AC250V 2A、DC30V 3A</td></tr>
<tr><td>アラームリセット入力</td><td colspan="2">1CH、TTL レベル</td></tr>
<tr><td>音声入力</td><td colspan="2">入力：4CH、LINE IN（RCA）、
出力：1CH、LINE OUT（RCA）</td></tr>
<tr><td colspan="3">インターフェース</td></tr>
<tr><td>ネットワーク接続</td><td colspan="2">10/100BASE-T（RJ-45）</td></tr>
<tr><td>RS-485</td><td colspan="2">1CH（プッシュターミナル）</td></tr>
<tr><td>RS-232C</td><td colspan="2">1CH（D-sub9 ピン（オス））</td></tr>
<tr><td>USB</td><td colspan="2">USB　2.0×2</td></tr>
<tr><td>SCSI</td><td colspan="2">Ultra Wide SCSI</td></tr>
<tr><td colspan="3">録画媒体</td></tr>
<tr><td>内蔵ハードディスク</td><td colspan="2">PATA HDD（500GB×1）
(最大 3 台搭載可能)</td></tr>
<tr><td>内蔵バックアップデバイス</td><td colspan="2">CD/DVD ドライブ（対応メディア CD-R/RW DVD-R/RW）</td></tr>
<tr><td colspan="3">一般仕様</td></tr>
<tr><td>定格電源</td><td colspan="2">AC100V 50/60Hz</td></tr>
<tr><td>定格消費電力</td><td colspan="2">100W（最大）</td></tr>
<tr><td>使用温度範囲</td><td colspan="2">+5℃〜+40℃</td></tr>
<tr><td>使用湿度範囲</td><td colspan="2">20%〜85%RH（結露なきこと）</td></tr>
<tr><td>外形寸法</td><td colspan="2">W430×H88 × D405 （突起部含まず）</td></tr>
<tr><td>質量</td><td colspan="2">約 7.4kg（増設ハードディスク含まず）</td></tr>
<tr><td>付属品</td><td colspan="2">取扱説明書、保証書、電源コード、遠隔監視（RASplus）ソフトウェア CD、ラックマウント金具、リモコン、USB フラッシュメモリ</td></tr>
</table>

本製品の仕様は、製品の改良のため、事前予告なしに変更されることがあります。

仕様

【外形寸法 】



【製品に関するお問い合わせ先】

セルコ株式会社　カスタマサポート室
E-mail：support@selco.ne.jp
TEL：075-501-0070（代表）　FAX：075-592-4275

セルコ株式会社

〒607-8326
京都市山科区川田御出町14番3
TEL：075-501-0070（代表）　FAX：075-592-4275

デジタルレコーダー SDRS-1611
取扱説明書
作成日：2010/3/15
AT-341-88